

## マレーシア機はウクライナ親ロ派が「撃墜」か、東西対立の懸念

(2014 年 07 月 18 日 11:50 JST)

[グラボベ (ウクライナ) 17 日＝ロイター] - マレーシア航空の旅客機が 17 日、ウクライナ東部で墜落、乗員乗客 298 人全員が死亡した。ウクライナは親ロシア派武装勢力がロシアの支援を受けて撃墜したと非難、米国も撃墜が濃厚と指摘し、ウクライナをめぐる東西陣営が対立するリスクが高まった。

米当局は地対空ミサイルによる撃墜との見方をしている。バイデン米副大統領は「空中で爆発した」と述べ、米当局者のひとりには親ロシア派がミサイルを発射したとの疑いが濃厚だと指摘した。

オバマ大統領は、ケリー国務長官や国家安全保障担当幹部と電話でそれぞれ協議し、真相究明の取り組み支援を継続するよう指示した。

ウクライナは軍事諜報当局者の支援を受け、ソ連時代に開発された S A11 地対空ミサイルにより撃墜したとしている。

一方で親ロシア分離独立派の「ドネツク人民共和国」の指導者は関与を否定、ウクライナ空軍のジェット戦闘機が撃墜したと指摘した。ただ親ロシア派は、地対空ミサイルを入手したことを認めており、14 日にはウクライナ空軍の輸送機を撃墜していた。

ロシアのプーチン大統領は「悲劇だ」と述べたが、原因については言及しなかった。またウクライナ側が東部での武装勢力への軍事作戦を再開しなければ発生しなかったとの見方を示した。

親ロシア派武装勢力に対する軍事行動を強化しているウクライナのポロシェンコ大統領は、テロリストの仕業として「ウクライナだけでなく欧州や世界的な安全保障への脅威」と述べた。

国連の潘基文事務総長は、原因究明のため「徹底的かつ透明性が確保された国際調査」を求めた。18 日には国連安全保障理事会の緊急会合を開く予定。

墜落したのはアムステルダム発クアラルンプール行きのボーイング 777 型マレーシア航空 17 便で、ドネツク市近郊に墜落した。ロイターの記者は、ロシアとの国境から約 40 キロ離れたグラボベの村で、墜落した機体の残骸と遺体を確認した。

マレーシア航空によると、搭乗していたのは乗客 283 人と乗員 15 人の 298 人。国籍の内訳は、オランダ人 154 人、マレーシア人 28 人、オーストラリア人 27 人、インドネシア人 11 人、英国人 6 人、ドイツ人 4 人、ベルギー人 4 人、フィリピン人 3 人、カナダ人 1 人。乗員は全員がマレーシア人で、その他の国籍は今のところ不明。

ウクライナの情報当局は、ロシアの情報当局者の電話での会話の録音を公開。ロシアが支持する武装勢力が航空機を撃墜したとする内容だった。マレーシア機の機影がレーダーから消えた午後 4

時 20 分（日本時間午後 10 時 20 分）の数分後で、会話内容からは武装勢力側は墜落機を発見するまでウクライナの軍用機を撃墜したと判断していたことが示唆された。

ドイツのシュタインマイヤー外相は「現時点では事故ではなく撃墜されたようだ」と述べ、オーストラリアのアボット首相は「ロシアの支援を受けた武装勢力が撃墜したようだ」との見方を示した。

マレーシア機は高度 3 万 3,000 フィートを飛行中に機影がレーダーから消えた。この高度は、親ロシア派武装勢力がウクライナ軍のヘリコプターなどを狙って通常使用しているミサイルでは届かない。しかし SA11 ならば撃墜可能。

ロシアのメディアによると、親ロシア派は少なくとも SA11 を 1 発取得し、14 日にウクライナ軍のアントノフ An-26 型輸送機を撃墜したという。ウクライナ当局も、輸送機撃墜と、16 日にはスホーイ Su-25 型ジェット戦闘機が撃墜されたと認めている。

親ロシア武装勢力の一派は、1337 GMT（日本時間午後 9 時 37 分）に、An-26 型機を撃墜したとソーシャル・メディアで公表した。マレーシア機が、この時間帯にウクライナ東部を飛行していた可能性もある。

米国のオバマ大統領はロシアのプーチン大統領とウクライナ問題をめぐり電話会談を行っていたが、会談の終盤でプーチン氏がロシアとウクライナとの国境近くに墜落した旅客機の一報を伝えた。

アーネスト報道官によると、オバマ大統領はスタッフから墜落に関して報告を受けた後、ウクライナ当局と引き続き緊密に連絡を取り合うよう指示した。

マレーシア航空は、飛行ルートは国際機関により安全とされていたことを明らかにした。

豪カンタス航空は数ヵ月前から、韓国の大韓航空やアジアナ航空は 3 月 3 日からウクライナ上空を避ける飛行ルートをとっていたという。アジアナ航空はウクライナ情勢の悪化が要因としている。

＊内容を追加して再送します。

© Thomson Reuters 2014 All rights reserved.

<http://bit.ly/WlKZvj>

## **マレーシア航空機、ウクライナのロシア国境付近で撃墜か**

(2014. 07. 18 ブルームバーグ)

ウクライナ東部で 17 日、マレーシア航空 の旅客機が墜落し、乗員・乗客 298 人全員が死亡した。

ウクライナ政府は親ロシア派の反政府勢力が撃墜したものだとは主張しているが、親ロシア分離派は関与を否定している。

ウクライナの安全保障当局は、反政府勢力が電話でこのミサイル攻撃について話しているのを傍受したと発表した。アムステルダム発クアラルンプール行きのマレーシア航空 17 便はロシアとの国境から約 30 キロの地点に墜落した。米当局者は東欧で広く使われているロシア製ミサイルによるものだと推測されると述べた。

このボーイング 777 機が墜落したのはウクライナで続く武力衝突の中心地であり、冷戦終結後最悪となっている欧州の地政学的危機が一段と緊迫化するリスクが高まった。欧州の航空管制機関はウクライナ上空を通過するルートの回避を決めた。

これまでウクライナ国内の戦闘への関与を繰り返し否定してきたロシアのプーチン大統領は、戦闘がなければ墜落も起こらなかったとしてウクライナ政府に責任があると語った。

オバマ米大統領は犠牲者に米国人が含まれていたかどうかを政府は調査しており、「これが最優先事項だ」と述べた。

## **オランダ人乗客 154 人**

マレーシア航空によると、同機の乗客は 283 人、乗員 15 人だった。同航空の欧州担当幹部がアムステルダムのスキポール空港で明らかにしたところによれば、乗客のうちオランダ人は 154 人。

ハモンド英外相は国際的な調査が必要だと発言。「国連主導の調査が望ましく、われわれはできる限り支援していきたい」とロンドンでのテレビインタビューで語った。

欧州の航空管制機関ユーロコントロールによれば、墜落したマレーシア航空機はウクライナ領空の高度約 1 万メートルを飛行していた。同機関は声明で、航空各社にウクライナ東部上空の飛行を禁止したと説明した。

米軍や米情報当局者は、調査は継続中だが、マレーシア機がロシア製の防空ミサイルによって撃墜されたとの見方が強まっていると述べた。使用されたのは北大西洋条約機構（NATO）のコードネームで「SA-11 ガドフライ」と呼ばれるミサイルとみられている。

米国防総省の当局者 2 人は、ウクライナ東部ないしロシア領内の親ロシア派武装勢力がマレーシア機をウクライナ軍の輸送機と見誤って撃墜したとの見方が主流になってきていると語った。

## **「プーチン大統領に責任」**

ジョン・マケイン米上院議員（共和、アリゾナ州）は親ロシア派による撃墜だった場合の今後の影響について問われ、「分離派のこのような撃墜能力はロシアから得たとしか考えられない」と述べ、

「従って責められるべきなのはプーチン大統領だ」と指摘した。

ウクライナ安全保障当局のバレンティン・ナリバイチェンコ氏はキエフで、政府には電話傍受以外にも反政府勢力の仕業の証拠があると述べたが、具体的な説明は避けた。

一方、反政府勢力の指導者、アンドレイ・プルギン氏はブルームバーグの電話取材に応じ、自分たちにはそれだけの高度に届く兵器はないとした上で、ウクライナ軍がマレーシア航空機を誤って撃墜したと語った。

マレーシアのナジブ首相はクアラルンプール空港で、墜落の原因を同国はまだ確認できていないと述べた。

原題 : Ukraine Says Malaysia Jetliner Shot Down by Rebels' Missile (1) (抜粋)

<http://bit.ly/WlL6qz>

## **マレーシア機、最新の地対空ミサイルで撃墜か**

(2014 年 7 月 18 日 10:58 JST W S J)

By ROBERT WALL and ALAN CULLISON

17 日にウクライナ東部で墜落したアムステルダム発クアラルンプール行きのマレーシア航空ボーイング 777 型旅客機は、入手が簡単で使用しやすい携行ミサイルではなく、最新の地対空ミサイルにより撃墜された可能性が極めて大きい。

携行ミサイルはこれまでも旅客機攻撃に使用されたことがある。だが携行ミサイルの場合、マレーシア航空機が飛行していた高度約 9000 メートルにははるかに届かない。同機には乗客・乗員合わせて 295 人が搭乗していた。

2002 年にケニア・モンバサ発のアルキア・イスラエル航空のボーイング 757 型機がミサイル攻撃を受けたことがあったが、このときは命中しなかった。03 年には国際輸送会社 DHL のバグダッド発エアバス A300 型機がミサイルを撃たれたが、安全に着陸できた。

こうした事件を受け、一部航空会社はミサイル攻撃への防御を強化し始めている。イスラエルはあらゆる旅客機に対し、通常は熱追尾式の携行ミサイルに対する防御システムを装備するよう義務付けている。

<http://on.wsj.com/1svF2J3>

## マレーシア機、ミサイルで撃墜ーロシア側関与か

(2014 年 7 月 18 日 09:47 JST W S J)

By PAUL SONNE And ALAN CULLISON

アムステルダム発クアラルンプール行きのマレーシア航空ボーイング 777 型旅客機が 17 日、ウクライナ東部ドネツク州上空を飛行中に墜落したについて、米情報機関は地対空ミサイルによって撃墜されたことを確認した。

米情報機関の間では、ミサイルを発射したのがロシア軍か、親ロシア派分離主義勢力のいずれかについては見解が分かれている。ただ、親ロシア派分離主義勢力が飛行中の民間機を独力で撃墜できる能力はないと見られている。

ある米当局者は「すべての道はある程度ロシア人に帰結する」と述べた。

プーチン・ロシア大統領は「この領土が平和であり、ウクライナ南部で軍事行動が取られていなかったならば、この悲劇は起きていなかっただろう」と述べた。

一方、オバマ米大統領は「恐ろしい悲劇だ」とした上で、ウクライナのポロシェンコ大統領に対し、墜落現場の保全を求めた。

マレーシア航空によると、墜落したのは 17 便で、ロシア＝ウクライナ国境から約 50 キロメートル (30 マイル) 離れたところで連絡が途絶えた。同機は 17 日正午ごろアムステルダムを出発し、18 日未明にクアラルンプールに到着する予定だった。

ウクライナ国家航空管制局は、乗客・乗員 295 人を乗せた同機が墜落したことを確認し、特別調査委員会関係者を現場に急行させたと述べた。

ウクライナ内務省顧問のアントン・ゲラシチェンコ氏によると、同機は、高度約 1 万メートル上空を飛行中、ドネツク州の Hrabove 村近くに墜落した。

墜落を受けて、直後からその原因に対する憶測が飛び交っている。過去数カ月間、ウクライナ軍は、親ロシア派分離主義者を鎮圧しようとしてきた。分離主義者勢力は 4 月に東部の町を占拠し、共和国として独立を宣言した。今週、一段と戦闘が激化しており、ウクライナ当局は軍用貨物機 1 機とジェット戦闘機 1 機がこの地域で撃墜されたと発表している。

今回の墜落は、マレーシア航空にとって悪夢の再来だ。3 月には同航空の別のボーイング 777 型機がクアラルンプールから北京に向かう途中、消息を絶った。現在も行方不明のままで、世界的なミステリーになっている。

ウクライナ東部の墜落現場で地元の人によって撮影された映像は、日没前に野原から巨大な灰色

の煙が立ち上っているのがわかる。その後の映像には、ウクライナの消防隊が飛行機の残がいかに放水している場面が写り、乗客の持っていたパスポートや航空券のほか、墜落現場近くでそのままになっている遺体の断片もあった。

同機墜落直後から、非難の応酬が始まった。前出の内務省のゲラシチェンコ氏は電話で、親ロシア派反政府勢力がロシアとの国境近くのスニジュネー近郊に地対空ミサイル装置を設置していたと主張した。

同氏は「彼らは明らかに、自分たちが攻撃の標的にしているのが軍の輸送機だと考えていた」と述べ、「(マレーシア機を) 撃墜したのは彼らだ」と語った。ただし同氏の主張の事実はされていない。

ゲラシチェンコ氏はフェイスブックの投稿で、分離主義者たちは「Buk」地対空ミサイル・システムを入手しており、それが 17 日日中にスニジュネーとトレーズの町近くを移動していたのを地元住民が目撃していると述べた。そして、マレーシア機が 17 日午後遅くに墜落する約 1 時間前に、墜落現場からそれほど遠くないシャフチョルスクという町に地対空ミサイルを積んだ輸送部隊が向かっているのが目撃されていたと述べた。

しかし、分離主義勢力指導者は 17 日、高度 1 万メートルもの上空を飛行するボーイング 777 型機を撃墜できるほど強力な地対空ミサイル・システム、例えば「Buk」システムを入手していた事実はないと強く否定した。

例えば分離主義者の宣言したドネツク人民共和国の指導者の 1 人 Sergei Kavtaradze 氏は、ウクライナ軍がマレーシア機を撃墜したと非難した。同氏はインタファクス通信に対し、「マレーシア機はウクライナ政府陣営によって撃墜された」と述べ、「われわれは、その種の防空システムを所有していない」と語った。

ウクライナの大統領と首相は、この墜落について、誰の仕業か直ちに指摘しなかった。ヤツェニウク首相は、マレーシア機墜落の原因と、今週同じ地域で墜落したウクライナ軍貨物輸送機とジェット戦闘機の原因も併せて究明するため、特別調査を指示した。

<http://on.wsj.com/1qMCICM>

## **ウクライナ当局、「通信記録で判明、ロシア軍情報員とマレーシア機の墜落に関連性」—シンガポール華字紙**

(XINHUA. JP 7 月 18 日 (金) 10 時 27 分配信)

シンガポール華字紙・聯合早報（電子版）は 18 日、「ウクライナ当局、『通信記録で判明、ロシア軍情報員とマレーシア機の墜落に関連性』」と題した記事を掲載した。

現地時間 17 日、295 人を乗せたマレーシア航空MH17 便がウクライナ東部で墜落した。同国の国家安全当局者によると、回収した通話記録により、2 人のロシア軍情報員が同便の墜落事件と関係していることが判明した。だが、通話記録の信ぴょう性は今のところ確認されていないという。

ウクライナ当局によると、通話記録はネット上に投稿されたもので、複数の男が旅客機の墜落により関係のない人たちを殺害してしまったことに恐れおののき、汚い言葉を口走っていたという。国家安全当局者は「ロシア軍が犯した罪を厳しく処罰するため、われわれは全力を尽くす」と語っている。(編集翻訳 小豆沢紀子)

<http://bit.ly/1mU0y5z>

### **マレーシア機、宇親露派が軍用機と誤認して撃墜か ツイート削除**

(AFP＝時事 7月18日 11時7分配信 一部更新)

【AFP＝時事】ウクライナ東部で17日にマレーシア航空 (Malaysia Airlines) 機が墜落したと発表される前に、同国からの分離独立を求めている親露派がウクライナ軍の輸送機を撃墜したというコメントを交流サイト (SNS) に投稿したが、後になってそのほとんどを削除していたことが分かった。

親露派は17日午後、ウクライナ軍との戦闘が続く東部の工業地帯上空を飛行中のウクライナ軍機少なくとも1機を撃墜したとの最初の一報を投稿した。

一方的に独立を宣言している「ドネツク人民共和国 (Donetsk People's Republic)」の自称防衛相イーゴリ・ストレルコフ (Igor Strelkov) 氏は、ロシアの交流サイト最大手「フコンタクチェ (Vkontakte)」の自身のページに、「たった今、トレーズ (Torez、ドネツク州の都市) 近郊でアントノフ 26 (An-26) 型機を撃墜した」と書き込んでいた。

ストレルコフ氏はさらに「これが『鳥が落ちた』ことを証明する動画だ」と書き込んだ。同氏のページには、マレーシア航空機についてウクライナのメディアが報道したものと完全に一致する情報へのリンクが掲載された。

この書き込みは直後に削除されたが、ウクライナ東部の同国軍司令部はこの投稿が表示されたディスプレイの画像を保存しており、英文の報道機関向け発表に添えて公開した。

ストレルコフ氏のものとされる書き込みでは、同機の撃墜に使用されたミサイルの詳細は明らかにされていない。しかしドネツク人民共和国は、その数時間前にマイクロブログのツイッター (Twitter) の公式アカウントから次のように投稿し、墜落したマレーシア航空機が飛行していた高度1万メートルまで到達可能なロシア製ミサイルを親露派が手に入っていたことを明らかにしていた。

「@dnrpress : DNRは（ウクライナの）地対空ミサイルA1402 連隊から自走式ブーク（Buk）地対空ミサイルを奪った」。この投稿も後に削除された。

ロシアの国営メディアはこれらの書き込みについては言及しておらず、ウクライナ空軍がマレーシア航空機を撃墜したという親露派指導者の発言を伝えている。

## ■露工作員との通信で悪態

その後、ウクライナ政府を強く支持している野党系ニュースサイト「ウクライナ・プラウダ（Ukrainska Pravda、ウクライナの真実）」は、撃墜後に親露派のメンバーとロシアの工作員が行った通信を傍受して録音したとされる音声を開示した。

その中でベース（悪霊）と名乗る親露派メンバーがロシア軍情報機関将校とされる人物に対し、「たった今、飛行機を撃ち落としました」と話していた。また別の録音では、戦闘員らしき人物が飛行機の残骸が残る墜落現場から、「100 パーセント間違いなくこれは民間機だ」と報告している。

この戦闘員は、乗客がたくさん乗っていたかどうかと質問されると、ロシア語で悪態をついたという。【翻訳編集】 AFPBB News

<http://bit.ly/1nhIS6w>

## ウクライナ東部、旅客機撃墜を取り巻く複雑な状況

(Newsweek 2014 年 07 月 18 日 11 時 56 分)

7 月 17 日の米国東部時間のお昼前後に、「ウクライナ東部で、マレーシア航空のボーイング 777 型機が不明に」というニュースが駆け巡りました。ネット上の反応などを見ますと、誰もが一瞬、3 月に発生したインド洋での同社の同型機の失踪を思い起こしたようです。

あの時は、機体が消えてしまい、現在でも不明になっています。ですが今回の場合は、事件が現地の昼間に発生したこともあり、様々な動画や静止画があふれる中で、数時間のうちに事態の概要が大きく報じられるようになっていきます。

映像の中には、明らかにマレーシア航空機の塗装やマレーシアの国旗の表示のある機体外壁の大きな破片があり、また遺体などから回収されたパスポートの山など、胸の痛む画像もあります。マレーシア航空のアムステルダム発、クアラルンプール行き「MH17 便」であることは間違いありません。乗客乗員 298 人の生存は絶望的と言われています。

この事件ですが、現時点で報じられていることを整理しておきます。

墜落したのは、ウクライナ東部の「ロシア系の分離主義者が支配している」地域です。墜落現場

の映像は出回っているのですが、その一方で、遺体や遺品の収容などについては、組織的な動きが出来ているのかは不明という報道があります。機体の残骸を勝手に持ち出すなどの行為が横行しているという報道もありますし、また、同機のフライトレコーダーなどが入った「ブラック・ボックス」は既に回収されて、「分離主義者」が持ち去ったと言われています。

墜落の原因は地対空ミサイル（おそらくは SA-17 などの俗称「ブーク」システム）の攻撃による可能性が濃厚とされています。この「ブーク」システムですが、ウクライナがソ連邦であった時代からこの地で製造が続けられており、現時点ではロシア軍、親ロシアの分離主義者、そしてウクライナ政府軍の三者が共に保有しているようです。

ここ数週間、この地域での戦闘は激化しており、地対空ミサイルによる攻撃も行われていたようです。特に事件の前日の 16 日には、「親ロシアの分離主義者」の攻撃により、ウクライナの戦闘機「スホーイ 25 型」が地対空ミサイルで撃墜され、ウクライナ政府側は激しく抗議していたという事情があります。その 2 日前には、同じくウクライナの輸送機「AN-26」も撃墜されています。

一方で、ロイター通信がロシアのインタファクス通信の解説として伝えたところでは、墜落機とほとんど同じ航路を、プーチン大統領を乗せた大統領専用機の IL（イリューシン）96 型が約 37 分後に通過しているというのです。ブラジルの W 杯決勝観戦、および BRICS サミットからの帰途ということです。この IL-96 は、ロシア製の比較的新しいジェットで、ボーイング 777 に外見は似ています。

事件の数時間後にオバマ大統領はプーチン大統領と電話会談しています。会談は事前に予定されていたものなのですが、その中で今回の事件に関する意見交換があったと報じられています。また、その直後にオバマ大統領はデラウェア州で演説したのですが、「大変な悲劇が起きた」という表現にとどめていました。

なおウクライナ政府は「これは親ロシアの『テロリスト』の犯行であり、ロシアの将校と『テロリスト』が携帯電話で航空機攻撃に関する会話をしているのを、我々は傍受している」としています。その上で「我々の攻撃の結果ではない」と主張しています。

とりあえず本稿の時点で発表されている、事実関係の概略は以上です。では、真相はどうだったのか？ 現時点の報道で出てきているのは次の 2 つの「説」です。

地対空ミサイルの攻撃であったとして、親ロシアの「分離主義者」が発射したのであれば、14 日に撃墜したウクライナの輸送機とボーイング 777 を誤認した結果という可能性が指摘されています。「ブーク」システムというのは、マッハ 4 で飛行するミサイルを高度 2 万メートルの高空のターゲットに命中させることが出来る精巧なものですが、ターゲットを捕捉するまでの索敵でミスをするれば、そのまま誤爆になってしまうわけで、「素人」同様の活動家が誤って操作したことは十分にあるという「解説」がされています。

その一方で、ウクライナ側が発射したとなれば、プーチンの乗った専用機を狙った可能性という

陰謀論も出ています。仮にロイター電が示唆するように「プーチン専用機撃墜未遂」というストーリーがあるとしたら、プーチンとオバマが電話会談をしたということが即座に発表されたことは、プーチンが自分の無事を国際社会に対して宣言するのに、アメリカは協力した格好になります。

なお、誰もが思った3月の事件の関連ということでは、現時点では特にこの2つの事件を結びつけるストーリーはありません。あくまで偶然にマレーシア航空が2度の悲劇に襲われたという理解がされています。

とりあえず、アメリカは事故調査の専門家チームをウクライナに派遣することにしており、ウクライナは調査団の受け入れを表明しています。また、多くの犠牲を出したオランダ、旅客機を撃墜された被害国であるマレーシアも真相究明活動を進めるようです。

一方で、NY市場は「ウクライナ危機の激化」を懸念して下げましたが、それほど深刻なニュアンスが広がっているわけではありません。いずれにしても、現地ならびに欧州、アメリカは夜になりましたが、一夜明けて現地の18日の金曜日になったところで、どのような動きが出てくるか、大変に注目されるところです。

また、この大ニュースと平行して、イスラエル軍がおそらくは予定していたと思われる、ガザ地区への地上軍の侵攻を開始しています。マレーシア機の事件と同様、こちらの方も大きく報道され、イスラエルへ向けて国際社会の批判は高まっています。

マレーシア航空機墜落に関するニュースはこの後、新しい事実が判明することで事件の様相がどんどん変化していくことが予想されます。ですが事件当日の時点で、事件がどのように伝えられ、どのような事実が発表されていたかを記録しておく意味でも、本日時点のアメリカでの報道を整理しました。

<http://bit.ly/1tYrFC0>

## **専門家：ウクライナ軍は 2001 年の民間機撃墜事件のようにマレーシア機を誤射で撃墜した可能性がある**

(ロシアの声 2014.07.18 11:52)

地対空ミサイル・システム「ブーク」 <http://bit.ly/WmkePx>

ウクライナの軍事政権は、墜落したマレーシア航空のボーイング777について、地対空ミサイル・システム「ブーク」によって撃墜された可能性があると主張している。

ドネツク人民共和国のボロダイ首相はすでに、ドネツク人民共和国にはそのようなシステムはないと発表した。

なおこれより先、ボーイングが墜落したドネツク州へ、ウクライナ軍によって、自走式地対空ミサイル・システム「ブーク」の大隊が移されたことが明らかとなっている。

地対空ミサイル・システム「ブーク」はソ連時代の 1983 年に軍へ導入された。ウクライナ陸軍は 2013 年の時点で地対空ミサイル・システム「ブクM1」を 60 基保有していた。

ウクライナ軍は以前、民間機を撃墜している。2001 年、ウクライナ軍は演習中に、高度 1,100 メートルを飛行していたシベリア航空 1812 便のテルアビブ発ノヴォシビルスク行のツポレフ 154M を誤って撃墜した。乗客 66 人乗員 12 人の全員が死亡した。

専門家たちは、ウクライナ軍の軍事機器の状態が悪いことを考慮し、今回悲劇が繰り返され、マレーシア機が、ウクライナのミサイル「誤射」によるさらなる犠牲となった可能性も排除できないとの見方を示している。

<http://bit.ly/1jWt60b>

## **マレーシア航空 17 便の墜落、知っておくべき 5 つのこと**

(2014 年 7 月 18 日 18:09 JST W S J)

マレーシア航空 17 便の墜落現場 ZUMA24.com

乗客 283 人、乗員 15 人を乗せたマレーシア航空の旅客機が 17 日、戦闘の続くウクライナ東部ドネツクで墜落した。米国の情報当局は、同機が地対空ミサイルで撃墜されたとみている。誰がミサイルを発射したかについては、当局者の間で見方が割れている。親ロシア派の関係者は、民間航空機を撃ち落とす技術は持っていないと話す。この墜落に先立ち、今年 3 月にはマレーシア航空 370 便が消息を絶っている。

### **1) 乗員乗客**

オランダのアムステルダムからクアラルンプールに向かっていたマレーシア航空 17 便のボーイング 777 型機が 17 日に地対空ミサイルで撃墜されたとき、乗客数は 283 人、乗員数は 15 人だった。同機はロシア国境に近いウクライナのドネツク上空を飛行していた。

### **2) ミサイル**

地上から約 1 万メートル上空を飛行していたボーイング 777 型機は「Buk」と呼ばれる地対空ミサイルで撃墜された可能性がある。Buk ミサイルは旧ソビエト連邦が開発したもので、射程距離は高度 4 万フィート（約 1 万 2,000 メートル）を上回る。音速の 3 倍で飛行するターゲットを撃ち落とす能力を持ち、約 55 キログラムの弾頭を搭載できる。

### 3) 非難合戦

非難合戦はすぐに始まった。ウクライナ軍もロシア軍もこうした地対空ミサイル・システムを配備している。分離派の一部は最近、ミサイル・システムをウクライナ軍から略奪したと主張していた。ウクライナ内相の顧問、ゲラシチェンコ氏は親ロシア派の分離主義者が旅客機を撃墜したと非難。一方、ロシアのプーチン大統領は、この地域での戦闘にはウクライナ側が責任を負うと主張、またロシアの関与を否定した。

### 4) 困難な調査

航空機の墜落調査は時間がかかり困難を伴うのが常だ。マレーシア航空 17 便の調査はとりわけ難しい。同機が墜落したのはウクライナ政府ではなく、反政府勢力が支配するエリア。ウクライナ側は親ロシア派が航空機のデーターやブラック・ボックスを回収したと主張している。墜落現場の保全に対する懸念もある。映像には親ロシア派とみられる救助隊員、メディア関係者や市民の姿が映し出されていた。調査団はまず、戦闘地域の中心部に当たる、荒れ果てた広い地域に散らばったがれきを調べる必要がある。ブラック・ボックスや物的証拠を調べられれば、調査官はどちらの当局に詳しい調査の責任があるかなど調査の第一歩となる決定を下すことができる。マレーシア航空も調査活動に参加する運びだ。

### 5) マレーシア航空はどうなる？

マレーシア航空は今後、規制当局の調査を受けるほか、メディアの取材攻勢に曝されることになるだろう。同社は政府系企業。今も 3 月に 370 便が消息を絶った事件による打撃からの回復途上にある。予約のキャンセル、長引く財務不安、価格競争の激化など、同社の将来には不安が山積みだ。

<http://on.wsj.com/UfdUPY>

### ウクライナに墜落したマレーシア機は軍に撃墜された

(ロシアの声 2014. 07. 18 18:43)

◎ Photo: REUTERS/Maxim Zmeyev <http://bit.ly/1oSAuGd>

ロシアは、マレーシア機の墜落に関する状況を客観的に明らかにするために、できることを全て行うよう呼びかけている。ロシアのプーチン大統領によると、この悲劇の責任はウクライナ政府にある。

外国人 298 人が、ウクライナでの戦闘の犠牲となった。ウクライナ南部・東部の上空を飛行していたアムステルダム発クアラルンプール行きのマレーシア航空のボーイング 777 が墜落し、乗客乗員合わせて 298 人が死亡した。今回の悲劇では、大規模な戦闘行為が行われている地域の上空が、なぜ民間機の飛行ルートとなっていたのかという疑問もある。だがプーチン大統領は、犠牲者の家

族に哀悼の意を表し、もしウクライナ政府が南部・東部で軍事作戦を実施しなければ、間違いなく、この悲劇は起こらなかったはずだとの確信を示し、次のように語っている。

「私たちは起こったことの客観的な状況が、ロシアの世論、ウクライナの世論、そして全世界の知るところとなるように、自分たちにできることを全て行う。この悲劇は、全く受け入れられないものだ。全ての人々は、この悲劇からしかるべき結論を導き出す義務がある。全ての人に、起こったことに関する客観的な情報が提供されなければならない」。

現時点で、今回の悲劇の原因について複数の説が存在している。恐らくマレーシア機は撃墜された。ウクライナ政府は、義勇軍がマレーシア機を撃墜したとして非難した。だがマレーシア機は、高度 1 万 500 メートルを飛行していた。軍事専門家のアンドレイ・クリンツェヴィチ氏は、義勇軍が保有しているたいしたことのない技術で、このような高度を速いスピードで飛行する対象を撃墜するためには、かなり真剣に努力しなければならないと指摘し、次のように語っている。

「このような航空機を義勇軍が撃墜するのはほぼ不可能だ。飛行速度は非常に速い。決断を下すための時間は 1 分未満。訓練を受けていない者は、恐らく反応が間に合わないだろう。そのため、マレーシア機はテロ行為によって空中で分解したか、あるいは戦闘機または地対空ミサイル S 200 のような本格的なシステムによって撃墜されたと考えられる」。

ウクライナ軍は S 200 で民間機を撃墜した過去を持っている。2001 年、ウクライナ軍は演習中にテルアビブ発ノヴォシビルスク行きのシベリア航空のツポレフ 154 を撃墜した。撃墜事件では乗客 66 人乗員 12 人の全員が死亡した。ウクライナ政府は長い間撃墜を否定していたが、その後、ウクライナ軍が誤射したことを認めた。ウクライナ政府は現在、以前のシナリオで行動している。ウクライナ政府は、戦闘行為が行われている地域でこのような悲劇が起こった罪も、取り返しのつかない誤射の罪も認めようとしていない。だが、真実は必ず明らかになるだろう。マレーシア機の「ブラック・ボックス」が、良い状態で発見され、解析が行われている。また世界中の追跡システムが、地上からのミサイル発射を必ず探知している。すなわち、もしマレーシア機が撃墜されたならば、ミサイルの発射場所を特定するのは難しくはない。

米情報機関筋はすでに、墜落現場の周辺地域で「地対空」クラスのみサイルが発射されたと発表した。またマレーシア機を担当したスペインの管制官は自身のツイッターで、マレーシア機がレーダーから消える数分前、その隣にウクライナの戦闘機 2 機が見られたと書き込んだ。

国際航空委員会はずでに悲劇の調査を開始した。マレーシア機が墜落した地域を管理している南部・東部の義勇軍のリーダーたちは、国際的な調査団や欧州安全保障協力機構（OSCE）の監視員、ウクライナ政府の代表者などが墜落現場へ訪れる際の安全を保証し、ウクライナ政府に対して、搜索・救助活動が行われている間の停戦を宣言するよう提案した。

<http://bit.ly/1jZ1S9G>

## ロシア航空局筋の情報によれば「本当の撃墜目標はロシア大統領機」

(ロシアの声 2014. 07. 18 09:35)

© Photo: REUTERS/Tomasz Bartkowiak <http://bit.ly/WnRfT6>

マレーシア航空ボーイング777機は、ウクライナ軍機により撃墜されたが、本当の目標はロシア連邦大統領機だったと思われる。ロシア航空局筋の情報を引用してインタファクス通信が伝えた。

それによれば、ロシア大統領機とマレーシア航空機は、同じポイント及び同じレベルで交差したとの事で、情報源の人物は「それが起きたのは、ポーランドの首都ワルシャワ近郊、高度1万100m、レベル330の場所で、ロシア大統領機は、モスクワ時間で16時21分、マレーシア航空機は15時44分に、その場所にあった」と指摘した。

なお両機の外形・大きさは似ており「かなり遠くから見た場合、事実上ほとんど同じ色に塗られている。」

<http://bit.ly/1tcR8nS>

## ウクライナ検事総長：地対空ミサイル「ブーク」と「S-300」は義勇軍に奪取されていない

(ロシアの声 2014. 07. 18 13:37)

© Photo: RIA Novosti/Alexandr Maksimenko <http://bit.ly/1mpclp5>

ウクライナのヤレマ検事総長は、義勇軍が地対空ミサイル・システム「ブーク」や「S300」を奪取したことは一度もないと発表した。

「ウクライナ・プラウダ」によると、ヤレマ検事総長はマレーシア機が17日に墜落した後、「ブーク」や「S300」が義勇軍に奪取されたことは一度もないことを、ウクライナのポロシェンコ大統領に報告したという。

ヤレマ検事総長は、「民間機が撃墜されたあと、軍人たちは大統領に、テロリストが我々のミサイル・システム『ブーク』と『S300』を保有していないことを報告した。これらは奪取されていない」と強調した。

これより先、ウクライナのゲラシェンコ内相顧問は、テレビ「ドーシチ」のインタビューで、マレーシア機は義勇軍によって地対空ミサイル・システム「ブーク」で撃墜されたと述べた。ポロシェンコ大統領も、マレーシア機墜落の責任を義勇軍に負わせた。

<http://bit.ly/1yEbz08>

## **ウクライナの管制官：飛行プランより低空を飛行するようボーイングに要求**

(ロシアの声 2014.07.18 18:41)

© Photo: REUTERS/Edgar Su <http://bit.ly/1kE6Y60>

ウクライナで墜落したマレーシア航空ボーイング777型機は、飛行プランが求めた高度よりも低いところを飛んでいた。同航空が自社のサイトで明らかにしたところでは「これは、ウクライナの航空管制官の求めによりなされた。」

マレーシア航空のサイト上では、次のように説明されている—「MH17 便の飛行プランでは、ウクライナ領上空を高度 1 万 660 メートル（3 万 5 千フィート）で飛行するよう求められていた。しかしウクライナの管制官の要求により、MH17 便は、高度 1 万 60 メートル（3 万 3 千フィート）を飛行せざるを得なかった。」

<http://bit.ly/Uggd51>

## **墜落したマレーシア機の「ブラック・ボックス」発見される**

(ロシアの声 2014.07.18 11:57)

© Photo: RIA Novosti/Mikhail Voskresenskiy

ウクライナの救助隊は、マレーシア機の墜落現場で、2 つ目の「ブラック・ボックス」を発見した。ロイター通信が伝えた。これより先、義勇軍が 1 つめの「ブラック・ボックス（フライトレコーダー）」を発見していた。

ドネツク人民共和国の指導部は、墜落したマレーシア機のフライトレコーダーを、州際航空委員会のロシアの専門家に渡すと約束した。州際航空委員会はすでに、墜落状況の調査に参加する用意を表明した。

<http://bit.ly/1nGaWuM>

## **ロシア外務省外交アカデミーのルーキン元校長：「西側はマレー機の悲劇をロシアの権威失墜に利用するか」**

(ロシアの声 2014.07.18 15:52)

© Photo: RIA Novosti/Mikhail Voskresenskiy <http://bit.ly/1n2hzLR>

ドネツク州上空で起きたマレーシア航空機の撃墜の悲劇。これは、その張本人が誰であれ、西側にとってはドネツクの義勇軍とロシアを非難する格好の材料となるだろう。史学博士でロシア外務

省外交アカデミーのアレクサンドル・ルーキン元校長は「ロシア・トゥデイ」からのインタビューに対し、こうし憂慮の念を表している。

「航空機を撃ち落としたのが誰であるにせよ、これがおそらくミスであったことは明白です。ウクライナの対空防衛であるかもしれないし、義勇軍である可能性もあります。ただし、後者の仕業である可能性は低いですね。なぜなら義勇軍にはこれに対応できる軍備がないからです。

やはりプーチン大統領が断言したように、最終的には罪はキエフ当局にあります。キエフ当局は休戦合意を破って空中戦を開始したからです。ですが、こうした理性的な考察にもかかわらず、矛先はおそらくロシアへと向けられてしまうでしょう。」

——いったい何故そうなるのでしょうか？

「西側の見方からすれば、ロシアは先験的に、常にあらゆる場面で罪の元凶なのです。特にここ数年、世界の緊張が高まるなかでは尚更です。ですが、せっかくソ連崩壊後、国際法に基づいた国際政治の新たなシステムを構築する可能性が出現したにもかかわらず、その理想をだめにしたのはロシアではなく西側なのです。

『良い目的』のためであれば、手当たり次第盗みを働き、いかなる国境も侵害し、いかなる合意も破ることのできる世界を作るため、『歴史の終焉』を確信し、一時的に高まった権勢を利用したのはロシアではなく、西側です。

『人道的干渉』、『擁護の責任』などという理論を推し進めながら、国家主権を謳う戦後の法体系を合目的的に破壊したのはロシアではなく、西側なのです。

国連の国際司法裁判所に圧力に圧力をかけ、コソボの一方的な独立宣言は国際法に違反しないと判断させたのはロシアではなく、西側なのです。

このあと、モルドバ、グルジアも分裂してしまい、今度はウクライナががたがたし始めています。ところが西側はポロシェンコ氏の『対テロ作戦』は法にかなったものと正当化を続けているのです。」

——この状況で、特にマレーシア航空機の悲劇のあと、ロシアは何をすべきでしょうか？

「この状況でロシアはすでに結果をだしている従来の路線を冷静に続行すべきでしょう。軍事手段で戦争に勝つことはできない、各所で状況をコントロールしている人物らとの交渉へ向かわねばならない。このことを西側に分からせねばなりません。残念ながら、西側は現段階ではこれを理解しておらず、キエフ当局の勝利に期待を寄せています。おそらく、これがようやく理解されるためには、さらに多くの犠牲が強いられることになるでしょう。」

<http://bit.ly/1nUTAz2>

**ロシア国防省：マレーシア機が墜落した日、ウクライナの「ブーク」のレーダーが稼働していた**  
(ロシアの声 2014. 07. 18 16:58)

◎ Photo: RIA Novosti/Vjacheslav Afonin <http://bit.ly/lyEgRss>

マレーシア機の墜落した場所は、ウクライナの地対空ミサイル・システム「S200」の砲台2基と「ブークM1」の発射台3基の迎撃ゾーンに入っていた。イタル・タスが、ロシア国防省の情報として伝えた。

国防省は、ロシアのレーダーによって7月17日、居住区スティラに配備された『ブークM1』の砲台のレーダー『クーポル』の稼働が探知されたと発表した。

<http://bit.ly/lyEgRss>

**マレーシア航空機墜落地点にダイバー達が到着**

(ロシアの声 2014. 07. 18 17:09)

◎ Photo: RIA Novosti/Andrey Stenin <http://bit.ly/Wjt7AZ>

17日、マレーシア航空機ボーイング777が墜落した、南東ウクライナ・ドネツク州のグラボヴォ村地区では捜索活動が続けられている。目撃者が、現地時間で12時、インタファクス通信に伝えた。

現地からの情報では「先ほどダイバー達が到着した。彼らは、池に落下した旅客機の一部や遺体を引き上げる予定だ。グラボヴォ村の現場周辺では、今も多くの遺体が散乱している。」

<http://bit.ly/1zSoSM1>

**米国はウクライナで内政干渉の原則に大きく違反した—OSCEロシア全権代表**

(ロシアの声 2014. 07. 19 09:35)

◎ Photo: AP/J. Scott Applewhite <http://bit.ly/1kHNb5r>

米国はウクライナで、ヘルシンキ宣言で規定されている内政不干渉の原則に大きく違反した。欧州安保協力機構(OSCE)におけるロシアの全権代表を務めるアンドレイ・ケリン氏が、ウィーンで開かれたOSCE常設理事会会で述べた。

ケリン氏によると、米国による上記の原則の最大の違反は、合法政府転覆の煽動だという。ケリ

ン氏は、「自分たちの公式な代表者を『マイダン』に送り、『マイダンのリーダーたち』の中から、誰を首相にし、誰を入閣させないかを決めた米国の主な行動は、まさに、そのためのものだった」と指摘した。

ケリン氏はまた、「ホワイト・ハウスは、ドンバスやルガンスク地域の住民たちに対して重装甲車、大砲、航空機などを送り込んだウクライナ指導部に対して分別をわきまえるよう説得するかわりに、さらなる流血の惨事を促そうとしているが、その際、シニカルに、起こっている出来事に対するあらゆる責任を拒否している」と語った。

ケリン氏は、「米国が唯一行っていることは、自国の違法な一方的制裁措置を広く宣伝していることだ。その背景には、主にウクライナとは関係のない地政学的意図があることがよく分かる」と強調した。

<http://bit.ly/1yJY7rN>

## **ロシア国防省、「西側のマレー機の声明は情報戦争」**

(ロシアの声 2014. 07. 19 14:05)

◎ Photo: REUTERS/Maxim Zmeyev <http://bit.ly/WlJoFy>

ロシアのアナトーリー・アントノフ国防次官は、マレーシア航空ボーイング777機の事件に関する西側の声明について、ロシアに対する情報戦争の延長だとの見解を表した。

「外国に、この状況に乗かって嫌がらせをしようとする人がいることは驚きであり、苦々しささえ覚える。今の段階ですでに、誰が悪いかを決めようとしている。というか、私たちの耳に入ってくるのは、悪いのはロシア連邦、その軍隊、またはウクライナ南・東部の義勇兵だと言う声だ。こうした全ては情報戦争の延長を思わせる。こうした情報戦争はロシアに対してすでに何ヶ月にもわたって展開されており、その影響を我々は実感している。」

ロシアのマスコミより

<http://bit.ly/1sB5Fwa>

## **経済制裁と旅客機と 2014年7月20日 マスコミに載らない海外記事**

Paul Craig Roberts

2014年7月17日

7月16日にオバマが発表した、ロシアの兵器・エネルギー企業が、アメリカの銀行融資を受ける

ことを阻止するという一方的なアメリカ経済制裁は、アメリカ政府の無能さを証明している。アメリカの二大企業団体を含むアメリカ政府以外の世界は、オバマに背を向けた。アメリカ商工会議所と全米製造業者協会が、ニューヨーク・タイムズ、ウォール・ストリート・ジャーナルと、ワシントン・ポストに、アメリカ経済制裁に反対する広告を載せた。全米製造業者協会は“アメリカ政府が、アメリカ企業の商業活動を損ねるような益々一方的な形で経済制裁を拡大していることに失望している”。ブルームバーグは“ブリュッセルでの会合で、欧州連合の指導者達はアメリカの方策に合わせることを拒否した”と報じている。

ロシアを孤立させようとして、ホワイト・ハウスの阿呆はアメリカ政府を孤立させた。経済制裁はロシア企業には効果あるまい。ロシア企業は必要以上の銀行融資を、中国、あるいは、フランスやドイツから得られよう。

アメリカ政府の三大特徴、傲慢さ、思い上がりと腐敗のおかげで、アメリカ政府は、恐ろしく物覚えが遅い。思い上がりに溺れる傲慢な連中は、学習能力が無いのだ。反抗にでくわすと、連中は、賄賂、脅迫と強制で対応する。外交には学習能力が必要だが、アメリカ政府はずっと昔に外交とはおさらばして、力に頼っている。

結果的に、経済制裁をしたことで、アメリカ政府は、自らの権力と影響力を浸食しつつある。経済制裁が、アメリカ権力の基盤であるドル決済制度から撤退するよう各国を奨励しているのだ。フランス銀行総裁で、欧州中央銀行運営評議会メンバーのクリスチャン・ノワイエは、アメリカ政府の経済制裁が、企業や国々を、ドル決済制度から追い出しつつあると述べた。アメリカ政府が認めない国々と事業を行ったかどで、フランスの銀行、BNPパリバから巻き上げられた膨大な金額で、アメリカ政府がルールを決める時代にドルを使用することから生じる法的リスクが増大していることを、アメリカ政府は明らかにした。

フランスの銀行に対するアメリカ政府の攻撃は、多くの人々にとって、過去の様々な経済制裁を思い起こし、ドイツのコメルツバンクに迫りつつある様な将来の経済制裁を熟考する好機となった。国際貿易で用いられる通貨を多様化させる動きは不可避だ。ノワイエは、ヨーロッパと中国間の貿易は、ドルを使用する必要性はなく、全額、ユーロあるいは人民元で支払い可能だと指摘した。

アメリカの支配が拡張しつつある現象が、世界中の全てのアメリカ・ドル建ての取引が、ドル支払制度から離脱するという動きを加速している。一部の国々は既に、貿易相手と、貿易支払いを、自国通貨で行うという二国間協定を締結している。BRICSは、ドルから独立した新たな支払制度を設立し、貿易不均衡に融資する為の、彼等独自の国際通貨基金を立ち上げようとしている。

アメリカ・ドルの交換価値は、国際決済制度における、その役割に依存している。この役割が縮小すれば、ドル需要も、ドルの交換価値も縮小するのだ。輸入品価格を通して、アメリカ経済にインフレーションが入り込み、既に四苦八苦しているアメリカ国民は、生活水準の更なる圧縮を味わうことになるだろう。

21世紀に、アメリカ政府に対する不信感が増大しつつある。イラクの“大量破壊兵器”、“アサド

の化学兵器使用”や“イランの核兵器”等のアメリカ政府のウソ、は、他国政府からはウソと見なされている。国々を破壊し、他の国々を破壊でおどす為に、アメリカ政府がつくウソが、世界を絶えざる混乱状態にし続けている。アメリカ政府が全員に味合わせている混乱状態を相殺するような、いかなる恩恵もアメリカ政府はもたらしていない。アメリカ政府との友情には、アメリカ政府の要求に服従することが必要で、各国政府が、アメリカ政府の友情は、大きな犠牲に値しないという結論に至りつつあるのだ。

NSAのスパイ・スキャンダルと、アメリカ政府が、その謝罪や、差し控えることを拒んでいることが、同盟諸国の、アメリカ政府に対する不信を深めている。世界中の世論は、他の国々が、アメリカのことを、平和に対する最大の脅威として見なしていることを示している。アメリカ国民自身、自国政府を信用していない。世論調査は、アメリカ国民の大多数が、政治家や売女マスコミや、ウォール街や軍安保複合体等の私益集団が、アメリカ国民を犠牲にして、自分達が儲かるように、体制を不正に操っていると考えていることを示している。

アメリカ政府の帝国に割れ目ができ始めていて、アメリカ政府は自暴自棄の行動をする状況になっているのだ。今日(7月17日)公共放送のナショナル・パブリック・ラジオで、マレーシア航空機がウクライナで撃墜されたことに関するBBCニュース報道を聞いた。報道は率直なものだったかも知れないが、ロシアと、ウクライナ“分離主義者”に濡れ衣を着せているように聞こえた。BBCは、より偏った意見を売り込み、番組は、分離主義者が、ロシアの兵器で旅客機を撃墜したという、ソーシャル・メディアの報道で終わった。

番組出演者の誰一人として、旅客機を撃墜して、分離主義者が一体何を得るのか疑問を持ったものはいなかった。そうではなく、ロシアの責任がはっきりした場合、アメリカのより強硬な対ロシア経済制裁を、EUが支持するように強いるだろうかという議論だった。BBCは、アメリカ政府の筋書きと、アメリカ政府が望んでいる見出し記事をなぞっている。

アメリカ政府工作の様相が見て取れる。あらゆる戦争屋がタイミングを見計らったかのように乗り出した。アメリカのジョー・バイデン副大統領は、旅客機は“撃墜された”と宣言した。“事故ではなかった”。特に何らかの魂胆がない人物が、いかなる情報も得る前に、一体なぜそこまで断言できるのだろうか？明らかに、バイデンには、旅客機を撃墜したのはキエフだという含意はなかった。バイデンは、ロシアを非難する証拠の強化に精を出している。実際、アメリカ政府のやり口は、証拠が不要なまでに、非難を積み上げるというものだ。

ジョン・マケイン上院議員は、乗客リストと、旅客機の墜落原因が判明する前に、アメリカ国民の乗客がいた推測に飛びついて、対ロシア懲罰措置を呼びかけている。

“捜査”は、アメリカ政府傀儡のキエフ政権によって行われている。既に結論がどういふものかわかるというものだ。

我々は、存在しないイラク“大量破壊兵器”の存在を“証明”した、アメリカのコリン・パウエル国務長官が国連に提出したでっちあげ証拠同様の、更なるでっちあげの証拠を与えられるという

可能性は非常に大きい。アメリカ政府は、余りに多くのウソ、欺瞞や犯罪で成功してきたので、何度でもいつも成功できると思い込んでいるのだ。

私がこれを書いている時点では、旅客機に関して信頼できる情報は皆無だが、ローマの有名なことわざの疑問があてはまる。“誰が利益を得るのか？”分離主義者が旅客機を撃墜する動機として考えられるものは皆無だが、アメリカ政府には、ロシアに濡れ衣を着せようとする動機も、別の二つの動機もある。報道あるいは噂の中には、プーチン大統領機が、マレーシア航空機と同じ航路を、37分以内の間隔で飛んでいたというものもある。この報道は、アメリカ政府がプーチンを処分することに決め、マレーシア航空機を、プーチンのジョット機と思い込んだという憶測を呼び起こす。RTは、二機の飛行機は外観が似ていると報じている。<http://bit.ly/1rupH8S>

アメリカ政府には非常に高度な能力があるから、二機の旅客機をとり間違えることなど有り得ないとおっしゃる前に、アメリカが、イラン領空で、イラン旅客機を撃墜した際、アメリカ海軍が、自分達が殺害した290人の民間人は、イランのF-14トムキャット戦闘機、アメリカ海軍の大黒柱であるアメリカ製戦闘機に搭乗していると思ったと主張したことを想起願いたい。もしアメリカ海軍が、自らの主力戦闘機と、イラン旅客機を識別できないのであれば、RT記事が非常に良く似ているとしている二機の旅客機を、アメリカが混同する可能性は明らかにある。

ロシアに濡れ衣を着せるBBC番組の中で、アメリカが“撃墜した”イラン旅客機には誰も触れなかった。誰も、アメリカに経済制裁を課そうとしなかった。

マレーシア航空機事件の結果が何であれ、ウクライナへの武力介入をアメリカ政府が継続していることに対する、プーチンのソフトな政策の危うさを実証している。ウクライナにおけるアメリカ政府の挑発に対し、軍事手段ではなく、外交で対応するというプーチンの決断で、オバマの経済制裁に対する、EUやアメリカの事業権益からの反対で明らかなように、プーチンは優位に立った。とはいえ、アメリカ政府が資金援助しているウクライナ国内の紛争に対して、迅速な力づくの結末をもたらさなかったことで、プーチンは、アメリカ政府お得意の狡猾な策謀に対して、扉を開けっ放しにしている。

もしプーチンが、母なるロシアに復帰したいという東部・南部ウクライナの旧ロシア領住民の要求を受け入れていれば、ウクライナの紛糾状態は、何ヶ月も前に終わっており、ロシアが濡れ衣を着せられるリスクもなかったろう。

アメリカ政府の公式的な立場は、ロシア軍兵士がウクライナで活動しているというもののゆえ、プーチンは、旧ロシア領への軍隊派兵を拒否した恩恵を十全に享受できてはいない。事実がアメリカ政府の狙いを裏付けてくれない場合、アメリカ政府はそういう事実を無視する。アメリカ・マスコミは、プーチンがウクライナにおける暴力行為の犯人だと非難している。経済制裁の基盤となっているのは、既知の事実ではなく、アメリカ政府の非難だ。

アメリカ政府が企てるには余りに卑劣な行動など有り得ない以上、プーチンとロシアは、よこしまな策謀の犠牲になりかねない。

ロシアは、欧米に催眠術にかけられていて、欧米の一部として認められたいという動機で動いているように見える。この受け入れられたいという欲求のおかげで、アメリカ政府の術中にはまってしまうかねない。ロシアは欧米を必要とはしていないが、ヨーロッパはロシアが必要なのだ。ロシアにとっての一つの選択肢は、ロシア権益に配慮しながら、ヨーロッパが言い寄ってくるのを待つことだ。

ロシア政府は、ロシアに対する、アメリカ政府の態度は、以下の様に考えているウォルフォウィッツ・ドクトリンによって形づくられていることを忘れてはならない。

“我々の第一目標は、旧ソ連地域であれ、他の場所であれ、かつてソ連が引き起こしていた規模の脅威をもたらす新たなライバルの再登場を防ぐことだ。これは新たな地域防衛戦略の根底にある主要な考え方であり、統合的に管理すればグローバル・パワーを生み出すに十分な資源がある地域を、いかなる敵対的勢力にも支配させないように、我々は尽力しなければならない”。

Paul Craig Roberts は、元経済政策担当の財務次官補で、ウォール・ストリート・ジャーナルの元共同編集者。ビジネス・ウィーク、スクリプス・ハワード・ニューズ・サービスと、クリエイターズ・シンジケートの元コラムニスト。彼は多数の大学で教えていた。彼のインターネット・コラムは世界中の支持者が読んでいる。彼の新刊、The Failure of Laissez Faire Capitalism and Economic Dissolution of the West、HOW AMERICA WAS LOST が購入可能。

記事原文のURL：<http://bit.ly/1yFeGoK>

<http://bit.ly/1rrj9dV>

## **コラム：撃墜事件がウクライナに与えた「3つの変化」＝ブレマー氏**

(2014年07月20日 11:00 JST ロイター)

### **国際政治学者イアン・ブレマー**

[18日＝ロイター] - ウクライナ東部で17日、マレーシア航空の旅客機MH17便が地対空ミサイルに撃墜された事件を受けて、ウクライナの紛争は急速に深刻化することになった。

この事件では、ウクライナ問題の当事者らが互いに双方の責任だと糾弾し合っている。ウクライナ政府は、事件が親ロシア派の「テロリスト」の仕業だとし、同派に情報や武器を提供しているとしてロシアにも責任があると非難。これに対し、親ロ派の分離主義者らは関与を否定、ウクライナ軍が2001年にシベリア航空機を誤爆した事故にも言及して、同国政府側が攻撃したと訴えている。また、ロシアのプーチン大統領はウクライナ政府が撃墜したとは明言していないものの、ロシア政府はこうした暴力的状況に親ロ派を追い込んだのはウクライナ政府の責任だと主張している。

事態は混乱しているが、この事件が意味することは明白だ。それは、紛争が劇的に深刻さを増し、さらに戦火が拡大する恐れが出てきたということだ。

一部のアナリストや評論家は、この事件をきっかけにプーチン大統領は親口派への支援を手控えざるを得なくなるとみている。親口派の犯行を示すより明白な証拠は、本来ならプーチン氏にそう決断させる理由を与えるはずだが、ロシア側がそのように出る可能性は非常に低い。

プーチン氏は引き続き、ウクライナに対する影響力と、ウクライナを北大西洋条約機構（NATO）に加盟にさせないことを自国の安全保障の最重要課題としてみている。それは、イランの核兵器開発をイスラエルが阻止しようとするのと同じことだ。マレーシア機撃墜を受けても、同氏の関心は少しも変わっていない。実際、この事件が生んだ3つの大きな変化が、事態のさらなる深刻化を示している。

第一に、プーチン氏がウクライナを非難した声明は撤回が極めて難しい。なおはっきりしないのは、親口派が旅客機を撃墜したとロシアが認めるのか、それとも否定するのか、曖昧にごまかすのか、証拠に異議を唱えるのかという点だ。しかし、ロシア政府はいずれにせよ、ウクライナ政府に暴力激化や地域不安定化の責任があるという主張は曲げないだろう。国営メディアを駆使して、自らの主張を訴えるはずだ。

次に、親口派による犯行が確実になれば、欧州各国や米国による制裁が強化されることになる。ドイツのメルケル首相は18日、「ウクライナで今起きていることの責任はロシアにある」と明言。米国も金融・エネルギー面での追加制裁のほか、他分野で新たな措置を取る可能性もある。制裁強化は紛争の方向性を変えるわけではなく、問題をエスカレートさせることになる。こうした制裁はこれまでの制裁と同様に、ロシア経済や投資家心理に大きなインパクトを与えるが、ウクライナにおけるプーチン氏の思惑を変える可能性は極めて小さい。

最後に、MH17 便撃墜事件を受けて、分離主義者への軍事作戦を進めるウクライナのポロシェンコ大統領に対し、国際社会がより強固な支持や共感を示すようになった。同大統領は攻撃が「テロリスト」によるものだとし、掃討作戦強化の責任を担う。今後、親口派が支配するドネツクやルガンスクで攻勢に出るとみられるが、多くの血が流れる厳しい戦いになるだろう。墜落事件は戦闘には大きな変化をもたらさないとみられる。戦闘が長期化し、双方がさらに苛立ちを募らせる中、情勢は行き詰まる可能性が高い。

今回の墜落事件はウクライナ紛争を急転換させるというより、加速させることになる。そして、国際社会のスポットライトは、ますます混迷化するこの危機に当てられることになる。

\*筆者はロイターのコラムニストです。本コラムは筆者の個人的見解に基づいて書かれています。

© Thomson Reuters 2014 All rights reserved.

<http://bit.ly/1rtbZ8Q>

## **プーチン大統領「何人も自らの狭い政治的利益達成の為に、マレー機墜落を利用すべきではない」**

(リア-ノーヴォスチ 2014. 07. 20 10:26)

© Photo: RIA Novosti/Michael Klimentyev

ロシアのプーチン大統領は、TV「ロシア 24」のインタビューに答えた中で「何人も、自らの狭い政治的目的達成のために、ウクライナでのマレーシア航空ボーイング 777 墜落を利用すべきではない」と述べ、次のように指摘した—

「ロシアは何度も、ウクライナで対立する全ての当事者に、流血の戦いを即時停止し、交渉のテーブルに着くよう求めてきた。もし 6 月 28 日に、ウクライナ東部での戦闘行動が再開されなければ、今回のような悲劇は起こらなかったろう。この地域の状況に責任を持つ人々は、自分達の国民、そして一般市民が悲劇の犠牲となった国々の国民に対する責任感を高める必要がある。

一方ロシアは、ウクライナ東部での紛争が軍事的なものから、交渉のテーブルに当事者すべてがつくような、平和的で専ら外交的手段による問題解決へと移行するよう、自分達にできるあらゆる事をするだろう。ロシアは、ドネツク州でのマレー機墜落のあらゆる状況の調査を I C A O が組織し詳しく実施する事に関心を持っており、援助を続ける用意がある。」

なお、これに先立ちプーチン大統領は、英国のキャメロン首相との電話会談の中で「国際的な調査が終わるまで、マレー機墜落の状況について、急いで結論を出したり、政治的に利用した声明を出したりするのを差し控える事が重要だ」と強調している。

17 日、ウクライナ東部で、アムステルダムからクアラルンプールに向かっていたマレーシア航空機ボーイング 777 が墜落し、子供達 85 人を含む乗客 283 人、15 人の乗員を合わせ、乗っていた 298 人全員が死亡した。キエフ当局は、この墜落の責任は義勇軍側にあると宣伝しているが、義勇軍は、1 万 m 上空の標的を撃ち落とせるような兵器を自分達は持っていないと強く主張している。

<http://bit.ly/1yP3ypa>

## **マレーシア運輸相「ウクライナは墜落現場への専門家のアクセスを保証していない」**

(イタル-タス、リア-ノーヴォスチ 2014. 07. 21 11:50)

© Photo: RIA Novosti/Mikhail Voskresenskiy

21 日付の新聞「スター」によれば、マレーシアのリオウ・ティオンライ運輸相は「我々は、専門家のマレー機墜落現場への妨害の無い即時立ち入りを要求している」と述べ、次のように続けた—

「ウクライナ政府は、専門家に墜落現場への安全な回廊を保証していないし、全体として彼らの安全自体も保証していない。墜落現場は、義勇軍がコントロール下に置いている。これまでに現場に行けたのは、欧州安保協力機構（O S C E）の専門家グループだけだ。」

113名からなるマレーシアの専門家グループは、すでに19日土曜日キエフ入りした。今日21日は、同国のアマン外相が到着する見込みだ。外相は、ウクライナのポロシェンコ大統領やクリムキン外相と会う事になっている。

17日、ウクライナ東部で、アムステルダムからクアラルンプールに向かっていたマレーシア航空機ボーイング777が墜落し、子供達85人を含む乗客283人、15人の乗員を合わせ、乗っていた298人全員が死亡した。キエフ当局は、この墜落の責任は義勇軍側にあると宣伝しているが、義勇軍は、1万m上空の標的を撃ち落とせるような兵器を自分達は持っていないと強く主張している。

[http://japanese.ruvr.ru/news/2014\\_07\\_21/274873342/](http://japanese.ruvr.ru/news/2014_07_21/274873342/)

## **マレーシア旅客機に何が起きたのか？**

（マスコミに載らない海外記事 2014年7月21日）

Paul Craig Roberts

2014年7月19日

ワシントンのプロパガンダ装置がフル回転しているので、我々は既知の事実すら失いかねない危険な状態にある。

分離主義者には、高価なブーク対空ミサイル・システムもなければ、それを操作するよう訓練を受けた要員もないという事実がある。

もう一つの事実は、分離主義者には、旅客機を撃墜する動機は無く、ロシアも同様だ。低空飛行の攻撃機と、高度10,000メートルの旅客機の違いは誰にでも分かる。

ウクライナはブーク対空ミサイル・システムを保有しており、ブーク砲兵中隊はこの地域で活動しており、旅客機に対するミサイルが発射された可能性がある場所に配備されていた。

分離主義者とロシア政府に旅客機を撃墜するは動機が無いのと同様、ウクライナ政府にも、更には、ウクライナ軍が余り乗り気ではない、対分離主義者への戦いを仕掛ける為に民兵を組織した、狂った過激派ウクライナ人民族主義者にも無いはずだと考えたくなる。ロシアをはめようという計画でも無い限りは。

武器体系に詳しいあるロシア人将軍は、兵器使用訓練を受けていないウクライナ軍がしでかした過ちだったという説を提唱している。ウクライナが多少はこの兵器を保有してはいても、ウクライ

ナ人は、ウクライナがロシアから独立して以来 23 年間、使用法の訓練を受けていないとこの将軍は言う。この将軍は、これは無能さによる事故だと考えている。

この説は、ある程度辻褄があっており、ワシントンのプロパガンダより遥かに辻褄が合っている。この将軍の説明の難点は、一体なぜブーク対空ミサイル・システムが、分離主義者の領土の近く、あるいはその領土に配備されていたのかを説明していないことだ。分離主義者は航空機を持っていない。ウクライナが、軍事的用途が無く、その分離主義者によって侵略され、装置が捕獲されてしまうかも知れない場所に、高価なミサイル・システムを配備するというのも奇妙な話だ。

ワシントン、キエフと売女マスコミが、プーチンがこれをしでかしたというプロパガンダを何としても推進することになっている以上、アメリカ・メディアからは信頼できる情報を得られることはあるまい。我々自身で何とか考え出すしか対策はない。

手始めの一步は、こう質問することだ。一体なぜ、ミサイル・システムはその場所にあったのだろうか？ 一体なぜ、高価なミサイル・システムを、そもそも使い道の無い紛争地帯に配備するようなりリスクを冒すのだろうか？ 無能が一つの答えで、もう一つの答えは、ミサイル・システムには意図された用途があったというものだ。

意図された用途とは一体なんだろう？ ニュース報道と状況証拠から得られる答えは二つある。一つは、超国家主義の過激派が、プーチン大統領機を撃墜するつもりだったが、マレーシア旅客機と、ロシア旅客機を混同したというものだ。

インターファックス通信社は、航空管制官と思われる匿名情報源を引用して、マレーシア旅客機と、プーチンの旅客機は、数分の間隔において、ほぼ同一の航路を飛んでいたと報じている。インターファックスは情報源をこう引用している。“プーチンの飛行機と、マレーシアのボーイングは、同じ点、同じ格子を通過したと申しあげることができる。それはワルシャワに近い、330-m 格子、高度 10, 100 メートルだ。大統領機は、モスクワ時間の 16:21 にそこを通過し、マレーシア旅客機は、モスクワ時間の 15:44 に通過した。旅客機の輪郭は似ており、大きさも非常に良く似ており、色については非常に遠距離からはほぼ同様に見える”

公式なロシアの否定は見えていないが、ニュース報道によれば、インターファックス・ニュース報道に対応して、ロシア政府は、プーチンの大統領機は、戦争状態が始まって以来、ウクライナ航路は飛行していないと述べた。

否定を額面通り受け取る前に、ロシア大統領暗殺というウクライナの企みには、ロシアが避けたがっている戦争を暗示しているという含意に配慮する必要がある。これにはまた、キエフのワシントン傀儡が、アメリカ政府の支援無しに、それほど危険な行為をする危険を冒すとは到底考えがたいので、アメリカ政府の共謀という含みもある。知的で合理的なロシア政府が、アメリカ政府と、そのキエフ傀儡によるロシア大統領暗殺未遂の報道を否定して当然だろう。そうでなければ、ロシアはこれに対し何かせざるをえず、それは戦争を意味するのだ。

二つ目の説は、公式ウクライナ軍の埒外で活動している過激派が、ロシアに責任をなすりつける為、旅客機を撃墜する陰謀を企てたというものだ。もしそのような陰謀が起きたとすれば、恐らくは、C I Aか何らかのアメリカ政府の手先と一緒に仕組んだもので、E Uに、アメリカ政府の対ロシア経済制裁に抵抗するのを辞めさせ、ヨーロッパのロシアとの貴重な経済関係を断ち切らせることを狙ったものだ。アメリカ政府は、その経済制裁が一方的で、イギリス首相というポチからの支持という可能性を除けば、N A T O傀儡諸国や、世界の他のどの国からも支持されていないことに苛立っている。

この二つ目の説明を裏付けるかなりの状況証拠がある。ロシア人将軍と分離主義者達との会話とされるもので、誤って民間航空機を撃墜したと話し合っているとされるユーチューブ・ビデオがある。報道によれば、専門家による、ビデオ中のコード分析で、ビデオが、旅客機が撃墜される前日に制作されたことが判明している。

ビデオにまつわるもう一つの問題は、分離主義者が、10,000メートル上空の旅客機と、軍の攻撃機とを混同することは考えられるが、ロシア軍が混同することなど有り得ない。唯一の結論は、ロシア軍を引き合いにだすことで、ビデオは二重にその信憑性を損なっているということだ。

専門家でない人々でも容易に理解できる状況証拠は、is on cue ニュース番組 organized いかなる事実が判明するより前に、ロシアに罪をなすりつけるように。

前の記事で、私が聞いた、明らかに、ロシアに全ての罪をなすりつける様、準備していたB B C ニュース報道について書いた。B B C 特派員がかたずをのんで、ユーチューブ・ビデオを見たばかりだが、ビデオはロシアがこれをしてかしたことを証明する決定的証拠だと報じるところで番組は終わった。もはや何の疑念もないと彼は言う。ウクライナ政府やアメリカ政府が入手する前に、情報は何かビデオになり、ユーチューブに載ったのだ。

プーチンがこれをしてかした証拠は旅客機攻撃前に制作されたビデオだ。ナショナル・パブリック・ラジオで放送された BBC 報道丸ごと、いかなる証拠よりも前に、ひたすら、それがロシアのせいであると決めつける目的の為に画策されていたのだ。

実際、全ての欧米マスコミ全員一致で言っている。ロシアのしわざだ。そして、売女マスコミは同じことを言い続けている。

こうした全くの意見の一致は、単に、欧米マスコミが、自動的に、アメリカ政府に賛成するようにさせる、パブロフ風条件反射訓練を受けた結果に過ぎないのかも知れない。反米的であることで、批判の対象となったり、勝利をおさめる大多数の意見から孤立し、間違えたことで、黒星をつけられたりすることを望むマスコミなど存在しない。アメリカでも最も重要なニュース雑誌の元ジャーナリスト、そして寄稿者として、私はこの仕組みを良く知っている。

その一方、もしパブロフ風条件反射訓練を無視すれば、唯一の結論は、あらゆるニュース展開はマレーシア旅客機撃墜に関するプーチンに罪をなすりつける為に画策されたものということになる。

ブルームバーグ・ビジネスウィーク副編集長ロメシ・ラトネサールの7月17日の記事は、画策に対する説得力ある証拠になっている。

[http://www.businessweek.com/articles/2014-07-17/the-malaysia-airlines-shootdown-spells-disaster-for-putin?campaign\\_id=DN071814](http://www.businessweek.com/articles/2014-07-17/the-malaysia-airlines-shootdown-spells-disaster-for-putin?campaign_id=DN071814)

ラトネサール説の題は“マレーシア旅客機撃墜はプーチンの災いとなる”だ。ラトネサールは、プーチンがはめられたと言おうとしているわけではない。彼が言おうとしているのは、プーチンがマレーシア旅客機を撃墜させるまで、“大多数のアメリカ人にとって、ウクライナへのロシア介入は、アメリカ権益にとって、重要性はほとんどないものに見えていた。この計算は変わってしまった…。何ヶ月か、あるいは何年もかかるかも知れないが、プーチンには、必ずやその無謀さを償われる時がやってくる。そうなった暁には、MH17機撃墜は、彼の破滅の始まりと見なされるようになる。”

元ウォール・ストリート・ジャーナル編集者として、私は、ラトネサールが書いたような屑記事を提出するような連中を首にしていだろう。裏付ける証拠皆無の中での当てこすりをご覧願いたい。アメリカ政府によるクーデターを“ロシアのウクライナ介入”だというウソをご覧願いたい。我々が目にしているのは、アメリカ政府の帝国主義という狙いによる欧米ジャーナリズムの完璧な墮落だ。ジャーナリストたるもの、すべからくウソに参画せねばならず、さもなくば踏み潰されるのだ。

今でも誠実なジャーナリストを、周辺で探して頂きたい。一体誰がいるだろう？ 全員売女である同業ジャーナリスト連中から、絶えず攻撃の的になっているグレン・グリーンウォルド。他に誰を思いつけるだろう？ ワシントンの命令でロンドンのエクアドル大使館に閉じ込められているジュリアン・アサンジ。イギリス傀儡政権は、エクアドルへ亡命する為のアサンジの自由通行を決して認めようとしない。これと同じことをした最後の国はソ連だった。ソ連は、ハンガリー傀儡政権に、ブダペストのアメリカ大使館に入ったミンツェンティ枢機卿を、1956年から、1971年まで15年間、閉じ込めるよう要求していた。ミンツェンティはアメリカ合衆国に政治亡命を認められたが、アメリカ政府傀儡のイギリスが、ワシントンの命令で、アサンジ亡命を認めようとしないのと同様、ハンガリーは、ソ連の命令で、彼の亡命を認めようとしない。

もし我々が正直で現実と直面する強さがあれば、ソ連が崩壊しなかったのを実感するに違いない。毛やポル・ポトらと共にワシントンとロンドンに引越したにすぎない。

プーチン外交の欠点は、プーチン外交が、善意と、真実が勝利することとに依拠していることだ。ところが欧米には善意など存在せず、アメリカ政府は真実が勝利することには興味皆無で、アメリカ政府が勝利することにしか関心がないのだ。プーチンが対決している相手は、理性的“パートナー”ではなく、彼に狙いを定めた宣伝省なのだ。

ロシアの思慮分別と、アメリカ政府の脅しの好対照である、プーチンの戦略を私は理解しているが、これはリスクの高い賭けだ。ヨーロッパは長らくアメリカ政府の一部であり、権力の座には、ヨーロッパをアメリカ政府から独立させるのに必要な構想を持ったヨーロッパ人は皆無だ。しかも

ヨーロッパの指導者連中は、アメリカ政府に仕えることで膨大な金をもらっている。首相職を離れて1年で、トニー・ブレアは5,000万ドル稼いでいる。

ヨーロッパ人が災難をいくつも経験しても、ヨーロッパの指導者連中が、自らの安楽な暮らし以外の何事かを考える可能性はまずない。そうした安楽な暮らしは、アメリカ政府に仕えることで、維持できる。銀行がまんまとギリシャを搾取したことが証明している通り、ヨーロッパ諸国民は無力なのだ。

ロシア国防相の公式声明はここにある。

<http://www.globalresearch.ca/mh-17-crash-in-ukraine-official-statement-from-russian-defense-ministry/5392000>

ガザ・ゲットーに閉じ込められたパレスチナ人に対するイスラエルの最近の残虐行為から注目を逸らしてしまったのだから、アメリカ政府の対ロシア・プロパガンダ攻撃は二重の悲劇だ。イスラエルは、空襲とガザ侵略は、パレスチナ人テロリストがそれを通して、イスラエルに押し寄せて、虐殺を行うトンネルとされるものを見つけ出し、閉鎖するための、イスラエルによる取り組みに過ぎないと主張している。もちろんイスラエルには、トンネルも、テロリストによる虐殺も存在しない。

せめて、アメリカ・マスコミのどれかで、ジャーナリストの一人くらいは、一体なぜ病院や民間人住宅を爆撃し、イスラエルへの地下トンネルを閉鎖するのか尋ねて欲しいと考えたくもなる。だが、それは、アメリカ・メディアの一員たる売女には無理な注文だ。

アメリカ議会とて、全く頼りにならない。下院も上院も、イスラエルのパレスチナ人虐殺を支持する決議を可決した。二人の共和党上院議員、卑しむべきリンゼイ・グラハムと、がっかりさせられたランド・ポール、そして二人の民主党上院議員、ボブ・メンドースとベン・カーディンが、イスラエルによるパレスチナ人の女性や子供達の計画的殺害を支援する上院決議を提案したのだ。決議は“例外的で、欠くべからざる”国民の上院で、満場一致で可決された。

集団大虐殺政策に対する報酬として、オバマ政権は、4億2,900万ドルものアメリカ納税者の大金を、虐殺への支払いで、イスラエルに即座に送金する。

アメリカ政府のイスラエルによる戦争犯罪への支持と、ウソに基づく対ロシア・プロパガンダの猛攻撃を比較願いたい。“サダム・フセインの大量破壊兵器”“アサドの化学兵器使用”“イランの核兵器”を、今我々は一からやり直しているのだ。

アメリカ政府は余りに長期間ウソをつき続けたため、もはやなにも他のことはできない。

Paul Craig Roberts は、元経済政策担当の財務次官補で、ウォール・ストリート・ジャーナルの元共同編集者。ビジネス・ウィーク、スクリプス・ハワード・ニューズ・サービスと、クリエイターズ・シンジケートの元コラムニスト。彼は多数の大学で教えていた。彼のインターネット・コラ

ムは世界中の支持者が読んでいる。彼の新刊、The Failure of Laissez Faire Capitalism and Economic Dissolution of the West、HOW AMERICA WAS LOST が購入可能。

記事原文のURL

<http://www.paulcraigroberts.org/2014/07/19/happened-malaysian-airliner-paul-craig-roberts/>

<http://bit.ly/1puMdmJ>

### **ロシア「いかなる武器も供与せず」、親ロ派の関与否定**

(2014 年 07 月 22 日 00:44 JST)

【モスクワ 21 日＝ロイター】 - ロシア国防省は 21 日、ウクライナ東部でのマレーシア航空機撃墜に親ロシア派勢力が関与したとする見方を否定し、ウクライナ軍の戦闘機がマレーシア機の近くを飛行していたと反論した。

国防省はまた、ロシアが親ロシア派勢力に地対空ミサイル「SA-11」を供与したとの見方を否定し、いかなる武器も供与していないと表明した。

ロシア空軍のマクシェフ中將は記者会見で「Su-25（戦闘機）とみられるウクライナ空軍機がマレーシア航空機の方角に向かっていくのを、ロシアの航空管制システムが検知した。Su-25 とマレーシア機の距離は 3 キロから 5 キロだった」と語った。

さらにカルトポロフ中將は、米国側が自らの主張の証拠となり得るような画像を提示すべきとした上で、「(国際社会では) 誰もそのような画像を目にしていない」と述べた。

こうしたロシア側の反論に対し、ウクライナ治安当局筋は、ロイターとのインタビューで、ロシアのブーク地対空ミサイル (SA-11) の受け渡しについて親ロシア派武装勢力が交渉を行っていたことを示す情報を、ウクライナ治安当局としてこれまでに公開していると再反論した。\*内容を追加して再送します。

<http://bit.ly/1pxD5a5>

### **親ロ派、マレー機犠牲者遺体とブラック・ボックスの引き渡しに合意**

(2014 年 7 月 22 日 04:29 JST W S J)

記者会見するマレーシアのナジブ首相 <http://bit.ly/1ndtwyo>

【クアラルンプール】マレーシアのナジブ首相は 22 日、ウクライナの親ロシア派分離主義勢力がマ

レーシア航空MH17 便の犠牲者の遺体とブラック・ボックスをマレーシアとオランダの当局者らに引き渡すことに合意したと発表した。

ナジブ首相と親ロシア派組織「ドネツク人民共和国」のボロダイ首相との交渉で合意に達した。フライトデータと操縦室の音声記録が保存されたブラック・ボックスは、ウクライナ東部ドネツク市で現地時間 21 日午後 9 時（日本時間 22 日午前 3 時）頃の受け渡しを予定している。

両氏の交渉ではこのほか、親ロシア派武装勢力が墜落現場を支配下に置いていることで阻まれていた国際調査団の現場入りも可能になった。

ナジブ首相はテレビ会見で「独立した国際調査団は事故の徹底した調査を行うため、現場への安全なアクセスが保証される」と述べた。

また、オランダ科学捜査班を率いるヨス・ファン・ルー氏は、犠牲となった乗員乗客 298 人全員の遺体が今後身元確認のためにオランダに移送されることを明らかにした。

ナジブ首相は「まだやるべきことがあり、誠意を持った話し合いを続けることが必要だ。（中略）ボロダイ氏と同氏が率いる組織は今のところ協力している」と述べた。

<http://on.wsj.com/1lnZ2FZ>

## **ウクライナ親口派、ブラック・ボックスをマレーシアに引き渡し**

（2014 年 07 月 22 日 09:21 JST）

〔ドネツク（ウクライナ） 22 日＝ロイター〕 - ウクライナ東部ドネツク州の親ロシア派勢力指導者、ボロダイ氏は 22 日早朝、墜落したマレーシア航空機のブラック・ボックス 2 つをドネツクでマレーシアの専門家に引き渡した。

ボロダイ氏は詰めかけた記者団の前でブラック・ボックスを披露。引き渡し手続きが終了したことを強調した。マレーシア当局の専門家は、引き渡されたブラック・ボックスについて、「若干傷ついているが、全般的には損傷を受けておらず良好な状態」とし、引き渡しについてボロダイ氏に謝意を示した。

またボロダイ氏は、犠牲者の遺体を乗せハリコフに向かっている列車がドネツクに到着したことを明らかにした。マレーシアの専門家とドネツク入りしたオランダの代表団も同行するという。＊内容を追加しました。

<http://bit.ly/1qZ1IA4>

## マレー機事件のロシア公開データー、キエフ当局に多くの疑問を投げかける

(インフォグラフィックス 2014. 07. 22 03:32)

© Photo : <http://bit.ly/1nn1PU6>

ロシア軍部は21日のブリーフィングで、事故の起きる前のウクライナ、ドネツク州の状況を示した客観的なコントロールのデーターを発表した。ロシア国防省の準備した資料は欧州先進諸国およびマレーシアの専門家らに手渡される。資料へのアクセスは自由に行える。<http://bit.ly/UlaOde>

### マレーシア機の航空路のずれ

ブリーフィングで発言したロシア空軍参謀本部第1作戦部部長のアンドレイ・カルタポロフ中將によれば、ドネツクまでマレーシア航空機は通常決められた航空路をたどっていた。ところがドネツク以後は航路を北方向に曲げている。

### 軍機は空中で何をしていたのか？

ロシア軍の有するデーターでは、マレー機の墜落事件当時現場付近にはウクライナ空軍機はなかったというキエフ当局の声明が覆される。カルタポロフ中將によれば、事件の前、マレー機から3－5キロメートルの地点にウクライナ軍の戦闘爆撃機 Su-25 が確認できる。

### なんのために「ブーク」が移動したのか？

カルタポロフ中將によれば、墜落機はウクライナ軍の地対空ミサイル「ブーク」の行動ゾーンにあった。中將はマレー機の飛行スキームを示し、「スキームでは航空路が分かるほか、同機の墜落したとされる場所がウクライナ軍の地対空ミサイル『ブーク』の稼働ゾーンと一致していることが分かる」と語っている。

### 米国の人工衛星には全てが見えていたか？

カルタポロフ中將によれば、事件の起きた時刻にちょうど、ウクライナ上空を米国の人工衛星が通過している。

「これが偶然なのか、それとも違うのか。だがマレー機の事件の発生時刻と米国の人工衛星がウクライナ領域を観測していた時刻が一致している」

### インフォグラフィックス

17日、ウクライナ東部で、アムステルダムからクアラルンプールに向かっていたマレーシア航空機ボーイング777が墜落し、子供達85人を含む乗客283人、15人の乗員を合わせ、乗っていた298人全員が死亡した。キエフ当局は、この墜落の責任は義勇軍側にあると宣伝しているが、義勇軍は、

1 万m上空の標的を撃ち落とせるような兵器を自分達は持っていないと強く主張している。

[http://japanese.ruvr.ru/news/2014\\_07\\_22/274939689/](http://japanese.ruvr.ru/news/2014_07_22/274939689/)

## 非業を遂げたマレー機、新たな対露制裁を正当化する手段か？

(ロシアの声 2014. 07. 22 13:28)

◦ Photo : <http://bit.ly/Ur9Mfs>

ウクライナ南東部で墜落したマレーシア航空機の大惨事はロシアへの圧力を強化する格好の手段となった。だがこの悲劇にロシアが関与した証拠として使われているのは、疑惑の多い資料ばかりだ。

10 日ばかり前、ロシア語のインターネット界にウクライナの事態に関連して 2 冊の長編 SF 小説が話題に挙げられていた。最初の 1 冊はグレブ・ボブロフ作『死産児らのエポック』。これはウクライナの内戦をテーマにしたものだ。本が出版された 2008 年当時、これは純然たる SF の世界のお話だと受け止められていた。ところが 2014 年、恐ろしいおとぎ話は現実のものとなった。このため多くの人の口から、2 冊目の小説、2013 年発刊のセルゲイ・アニシモフ作、『あさっての 1 日前』の悪夢のような予測も現実のものとなるのだろうか？ という問いが挙げられている。そこに書かれているのは N A T O がロシアに対して宣戦した初期の頃の話で、そのきっかけとなったのは米国中央情報局（C I A）が仕組んだドイツの副大統領の殺害事件とロシアがバルト諸国に攻撃したという嘘の情報だった。

今、ロシアに問われている罪。それは、オランダを離陸し、ウクライナ南東部上空を通過してマレーシアへ向かっていたマレーシア航空機の乗員乗客 298 名の殺害に関与していたというものだ。この事件が起きたのは正真正銘の内戦が、世界には合法的な「反テロ作戦」と見せかけられながら展開されている地域の上空である。厳密に言えば、マレー機がどう非業の死を遂げたのか、その最終的な帰結を出すのは時期尚早である。なぜなら国際的な専門家らは機体の破片や残骸を調べてはおらず、「ブラック・ボックス」の解析も始まっていない。またパイロットがウクライナ上空を監視している航空管制官らと交わした録音会話も聞かれていない。

だが世界のマスコミは大声で、悪いのは「親ロシア派の分離主義者らだ」と叫んでいる。あたかも、高度 1 万メートルの射程距離をもつ地对空ミサイル・システム「ブーク」を親ロシア派がロシアから手に入れていたかのような物言いだ。

キャメロン英首相は新たな対露制裁の導入を要求した。理由は「ますます重みを増し続ける証拠資料によって」英国と自由世界全体は「MN17 機は反体制派が掌握するゾーンから発射された『地对空』ミサイルによって撃墜されたという明確な帰結に達した」からだという。どうやらキャメロン氏はウクライナ側が提出した資料を「証拠」だと考えているようだ。それはまず、ウクライナ安全保障庁がインターネットに掲載したドンバスの反体制派の電話会話録音で、やりとりでふたりは、

どこかのコサックが飛行機を撃墜した。飛行機は民間機だったと語っている。この会話録音を世界のマスコミはすでに「分離派」とそれを支持するクレムリン、つまりロシアの犯罪を示す証拠として広範に流布した。ところがロシア人専門家らが音声分析を行ったところ、これが捏造されたものであることが暴露された。録音は互いに無関連な2つの録音から、部分を組み合わせて作られたもので、一つの部分はどうやらウクライナ空軍の軍事輸送機AN26の撃墜のことをそしてもうひとつの部分はマレー機の墜落のことを語っているらしい。だが、この会話には誰がこれを行ったかという言葉は一切出てこない。捏造音声がでっち上げられたのは7月16日。マレー機の事件の1日前だ。つまりキエフは、7月17日、マレーシア航空機に何が起こるかを知っていたということになるのか？

2つめの「証拠」もそれよりいいとは言えない。これは「ブーク1」を映した動画だが、ミサイルのほうは既に使用されて欠如している。これが、キエフ当局が断言するところによれば、マレー機を撃墜した後、クラスノダール市を通過し、ロシアとの国境に向かって移動しているらしい。映像から判断すると「ブーク」はキエフに忠実な軍が掌握するクラスノアルメイスク市を通っている。つまりこの「ブーク」はウクライナ軍に属しているものである。

さらにもうひとつ、マレー機撃墜は「分離派」か、またはそれを助けるロシア人専門家らの発射した「ブーク1」のミサイルによるものという説に疑問を呈する、あるディテールがある。「ブーク1」がミサイルを発射した場合、これはS-200と同様、ミサイルの破片または小型の球が敵の航空機の機体を貫通する。その貫通による穴はすぐに分かる。

たとえば2001年、対空国防演習を行っていたウクライナ軍により黒海上空で撃墜されたロシアのTu-154の機体の破片。その破片にもこの穴はあった。(イスラエルとロシアの民間人が死亡したこの事件について、ウクライナは結局その罪を認めようとせず、犠牲者への賠償金の支払いを拒否した。今、この事件についてはウクライナも西側も思い出さないように努めている。)

だがマレー機の破片にはこのような穴はない。そのかわり、30ミリの高速射撃から発射した爆発弾であればこんな穴を残しただろうと思われるものはある。こうした大砲はソ連製の戦闘機に装備されているもので、ウクライナ軍の軍備にはそれがある。実は目撃者らの証言では、墜落していくマレー機の傍らに2機の戦闘機が見られていた。こうしたことから、国際的な委員会が帰結を出す前に真犯人の名を挙げないほうがいいのではないだろうか？

<http://bit.ly/1rICapK>

## **マレー機事件、ウクライナは捏造情報を流布、ロシアが非難**

(ロシアの声 2014.07.23 05:10)

© Photo : AP/John Minchillo <http://bit.ly/Un03XY>

国連安保理はマレーシア機撃墜事件の真犯人に責任を追求し、事件の原因究明のため、公平で独立性のある国際的な捜査が確保されるよう呼びかけた。この要求が書かれた決議は7月22日、全会

一致で採択されている。ロシアは事件究明にオランダが主導的役割を演じることを歓迎し、この問題で「偽造情報を流布した」としてウクライナを非難した。

ロシアのチュルキン国連大使は、ロシアはウクライナ上空でのマレーシア機撃墜事件の捜査に自国の代表を送る構えであり、オランダが主導権を握ることでより客観的かつ有効な捜査が可能となるだろうと期待を表した。国連安保理の席でチュルキン大使は悲劇の原因について「捏造した情報を流布」したとしてキエフ当局を非難し、次のように語っている。

「キエフ当局のやり口はひどい。捏造情報の流布から始めた。しかも国連安保理の場でもそれを行った。世間を騒がせた、義勇軍司令官らの音声録音も、複数の会話の音源を組み合わせたものであることが判明した。しかも会話は7月17日の事件の前に行われたものだった。ウクライナ内務省の発表したビデオは、地対空ミサイル・システム『ブーク』がロシア領内へと移送されている様子を映し出したことになっていたが、これも実際はキエフ当局の掌握するテリトリーで撮影されたものだった。このため、もしこれが撃墜事件であったとしても、その背後にいるのは義勇軍では決してありえないことになる。」

文字通り事件の起きる1分前に、ウクライナ南・東部を米国の宇宙機器が通過している。この宇宙機器は様々な射程距離のミサイルの発射を発見し、追跡することを目的としている。これについては21日、ロシア空軍参謀本部第1作戦部部長のアンドレイ・カルタポロフ中將が声明を表し、米国に対して人工衛星からの映像を詳細な検討に付すために国際社会に提出するよう求めている。これに加えて、ロシア軍部はマレー機のそばにウクライナ空軍の戦闘機、Su-25を目撃している。マレー機がレーダーから姿を消したあと、ウクライナ軍機は民間機が落下した地点の空中を哨戒している。

アンドレイ・カルタポロフ中將は詳細をあげ、キエフ当局が未だに断固として否定しているこの事実の説明を求めて、次のように語っている。

「Su-25がマレー機から離れていた距離は3～5キロメートル。Su-25はその特徴から高度1万メートルまで上昇が可能だ。常設の軍備には空対空クラスのみサイル、R-60が含まれている。これは最高12キロメートル離れた標的を捉え、攻撃する能力があるもので、5キロ圏内であれば撃墜は保証できる。一体どんな目的で軍用機が民間機の航空路を、ほぼ同時に並行して飛行することがあるのだろうか？ この問いに答えていただきたい。」

事件については、ロシアの客観的な観測手段が捉えた詳細は他にもある。マレー機はドネツク州上空で航空路を北寄りに14キロずらしていたことがわかった。その後、マレー機は本来の航空路に戻ろうとしたが、その境界線にまで到達する間もなく、事件が起きている。パイロットがこうした行動をとる理由については、キャビンの自動録音やウクライナの航空管制官とのやりとりの解明を待たねばならない。

7月22日、義勇軍は約束どおりマレーシア側の代表に事件現場で見つかった「ブラック・ボックス」を手渡したことが明らかになった。ロシア軍部はさらにもうひとつ、ウクライナ軍が事件に関

与した疑いを示す証拠を掴んでいる。事件当日、ウクライナ対空防衛隊はドネツク上空に「3ないし4」機の地対空ミサイル・システム「ブークM1」を追加していた。しかも、マレーシア機の航空路は「ブークM1」の行動ゾーンに入っている。7月14日から18日にかけてのこの「ブークM1」の位置を写した人工衛星からの映像がある。写真では「ブークM1」の中隊のひとつが撃墜事件の当日、ドネツクから50キロメートルの、義勇軍の掌握するテリトリーに最大限近く移されているのがわかる。ところが事件の翌日にはもう、その中隊は配置換えされている。キエフ当局はこの事実についてのコメントを控えている。

ロシアは事件の原因究明の誠実かつ透明性の高い、公平な捜査のために、こうしたデータをはかのものと合わせ、国際的専門家らに提出する構えだ。

<http://bit.ly/1wYkEy0>

#### **ロシア ウクライナに墜落したマレーシア機の事故に関するロシア国防省の情報をEUに渡す** (リア・ノーヴォスチ 2014. 07. 23 09:30)

ロシアは欧州連合（EU）に、ウクライナに墜落したマレーシア航空ボーイング777の事故に関するロシア国防省の全ての情報を渡した。ロシアのチジョフEU大使が明らかにした。  
<http://bit.ly/UliYCy>

<http://bit.ly/1jUL4Aa>

#### **ウクライナに墜落したマレーシア機事故に関する米情報機関の証拠は説得力がないー専門家** (インタファクス 2014. 07. 23 11:29)

© Photo : RIA Novosti/Andrey Stenin <http://bit.ly/1mCYzzo>

米情報機関が22日に発表したマレーシア航空のボーイング777の墜落事故に関する情報は、機密解除文書の公表なしでは説得力がない。カリフォルニアの独立系研究所のアナリストで、国家安全保障問題に関する専門家のIvan Eland氏が、リア・ノーヴォスチ通信に語った。

Eland氏によると、米国は義勇軍を非難しているが、ウクライナ政府が自分たちの敵対者を非難することに利用するために、マレーシア機を意図的に撃墜した可能性があるという。Eland氏は、専門家たちのあらゆる分析は、証拠が開示されない場合、認めるに値しないと指摘した。

またEland氏は、米政府の複数の代表者たちには、ロシアがマレーシア機撃墜に直接関与したことを示す証拠は必要ないと指摘し、彼らはいずれにせよ、ロシアが義勇軍に武器を供与したとして非難していると述べた。

Eland氏は、米国の立場は偽善的だとの考えを表している。米国は、国際テロリストへの支援の脅威があるにもかかわらず、例えばシリアなど、自分たちの利益にとって必要だと考える場所で常に反政府勢力を支援している。

米情報機関の高官は22日、米国はウクライナ東部でマレーシア航空のボーイング777を撃墜した真犯人を知らないが、義勇軍が誤ってマレーシア機を撃墜したとの見方を表した。

<http://bit.ly/1kSUeb0>

### **米国はマレーシア機墜落でウクライナ政府が有罪であることを示す証拠を持っている可能性がある —専門家**

(ロシアの声：テレビRT 2014.07.23 17:07)

© Photo: AP/Airbus DS/All Source Analysis <http://bit.ly/1pdUaHv>

米国は、マレーシア機墜落でウクライナ政府が有罪であることを示す情報を持っている可能性がある。モスクワ市議会の議員で、対テロ部隊退役軍人協会「アルファ」の会長セルゲイ・ゴンチャロフ氏が、ロシアのテレビRTのインタビューで述べた。

ゴンチャロフ氏は、米国で22日、ウクライナ東部でマレーシア機が撃墜されたことに関するブリーフィングが開かれたことについて、米国側はこの件で義勇軍が有罪である証拠を一切提示しなかったと指摘し、もし米国が実際に証拠を持っていたならば、彼らは必ずそれを公表していたはずだと述べた。

ゴンチャロフ氏は、米国は恐らく、ウクライナ側が「ボーイング」を撃墜したことを示す情報を持っているのではないかとの見方を示し、だが米国はある程度ウクライナ情勢で支配権を握っているため、それらの情報を提示することは、米国にとって都合が悪いのだと述べた。

ゴンチャロフ氏は、ロシア国防省は、現時点で誰も反論できないマレーシア機墜落に関するあらゆる技術的証拠を提示したと指摘した。

RTより

<http://bit.ly/1tD0YzS>

### **◇ロシア、事件のデーターを提出、EU、米国の反応を待つ**

(ロシアの声：コンスタンチン・ガリボフ 2014.07.23 16:19)

7月22日、ロシアはEUに対し、ウクライナ領で起きたマレーシア機事件に関する客観的なコン

トロール手段が捉えたデーターのすべてを正式に提出した。提出が行われたのは、ロシア国防省がモスクワでのブリーフィングにおいてロシアの追跡手段がキャッチしたデーターを公表した一昼夜後だった。ロシア軍部はドネツク州領内で事件の前の状況をはっきりと描き出した。

データーを調べたロシア軍部からはキエフ当局に対し、多くの疑問が湧き上がった。特に、ウクライナのレーダーはなぜ事件の前日と当日、活動を活発化させたのか、なぜ事件後に活動を止める命令が出されたのか？

ウクライナの地対空ミサイル「ブーク」は義勇軍の中隊が掌握するテリトリーの付近にあって、事件の前まで一体何をしていたのか？ そして事件後、なぜ即刻退却させられたのだろうか？

ウクライナ空軍の攻撃機、Su25 は事件発生直前に、なぜマレーシア航空機に3～5キロメートルの地点まで接近したのだろうか？ そしてどうしてキエフ当局はこの事実を否定しているのだろうか？

キエフ当局はロシアのこうした問いに、すでに2昼夜も経過しているにもかかわらず、一切回答していない。ロシア空軍参謀本部第1作戦部部長のアンドレイ・カルタポロフ中將はモスクワで行われたオフィシャル・ブリーフィングで米国に対してもマレー機事故の状況究明のために原則的に重要な問いを投げかけている。

「米国の代表らの声明によれば、米国にはマレーシア機を撃墜したのが義勇軍側から発射されたミサイルであることを確証づける人工衛星からの映像があるという。だが、この映像を誰も目にしていない。仮に米国側に人工衛星からの映像があるのであれば、今後の検討に付すために国際社会に提出を願おう。偶然の一致なのかどうか不明だが、マレーシア機の事件が起きた時刻と米国の人工衛星がウクライナ領域を観測していた時刻は一致している。」

米国はこの映像を誰にも渡していない。EUにもロシアにも渡していないのだ。提出は22日に行うと約束はしたものの、22日当日、ワシントンで行われたブリーフィングで米国の諜報機関の代表らはマレー機事件に義勇軍とロシアが関与したという証拠を提出できなかった。米大統領府も米国務省も声をそろえ、まさに特務機関がマレー機撃墜の張本人がわかる確信的証拠を提出すると約束していたにもかかわらず、である。一人の諜報員は「我々は名前を知らない。我々は名称を知らない。そして我々はボーイングを撃った人物の国籍がどこのものか、100%の確信はもてない」と語っている。

ブリーフィングで諜報機関職員らが提出したものは人工衛星からの極秘映像ではなく、衛星からの映像といっても情報をしかとは伝えないものであり、それとソーシャルネットからの情報にすぎなかった。そしてこれを根拠に彼らは、マレー機はおそらく義勇軍によって誤って撃墜されたのではないかという説を唱えたのだ。一方で米国特務機関は、ウクライナ政府が公表したインターネット上のマテリアルが信憑性のあるものなのかどうかは、断言できないと認めている。それまで一連の専門家らからは、米国とウクライナの役人らが証拠として引用していた、ソーシャルネットにあった動画には、明らかにモンタージュされた痕跡が認められるという指摘が上がっていた。

C I S 研究所のイーゴリ・シシキン副所長は、こうした米国の態度には意表をつくものはなにもないとして、次のように語っている。

「こうした事の展開は予想の範囲だった。どんな条件下でも、この事件についてどんな証拠をロシアが提出しても、米国はそれを認めようとはしないだろう。ロシアの出す証拠について、米国はそれを公式的にプロパガンダだと言っている。米国はなんの証拠もだそうとはせず、それでも自分の説を曲げようとはしないだろう。どう考えても、そんな証拠は、米国は握っていない。」

米国諜報機関のひとはブリーフィングで、事件に関するロシアの関与、ないしはロシアがあたかも義勇軍に地対空ミサイル「ブーク」の使い方を教えたという証拠を自分たちの諜報機関は握っていないと認めた。西側はブークがロシアから義勇軍へ移送されたという説を何度も何度も引用してきた。ところがこの諜報員は、米国諜報機関は「ブーク」がロシアとウクライナの国境を超えて移送されたことは確認できていないと認めたのだ。

<http://bit.ly/1sUJUI1>

#### **オバマ大統領がプーチン大統領を個人攻撃しない理由 By GERALD F. SEIB**

(2014 年 7 月 23 日 20:37 JST W S J)

**ホワイト・ハウスでウクライナ問題について語るオバマ大統領 (21 日) Reuters**

<http://bit.ly/1nig028>

マレーシア航空 17 便の撃墜ならびに事故処理の混乱をめぐってオバマ米大統領はロシアに非難の矛先を向けているが、プーチン大統領個人に対しては厳しい批判を避けたがっていると思えてならない。

例えば、米政府が 21 日に発表した声明で、オバマ大統領はウクライナの親ロシア派を単刀直入に批判した。米国は親ロシア派が航空機を撃墜した可能性が高いと主張している。

オバマ大統領はロシアによる親ロシア派への支援の仕方については厳しい口調で非難。「ロシアが彼らを駆り立てている。ロシアが彼らを訓練している。ロシアが地対空ミサイルを含む軍事機器や武器を彼らに提供したことは分かっている」と表明した。

一方、直接プーチン大統領に言及する際にはオバマ大統領は慎重に言葉を選び、「プーチン大統領は完全で公正な調査を支援すると話している。私はこの言葉を評価するが、行動を伴う必要がある」と述べた。一方、サマンサ・パワー米国連大使は同日の安全保障理事会での発言で、プーチン大統領を厳しい口調で非難した。

プーチン大統領個人とロシア全般に対するトーンが違うのをどう説明できるだろうか。可能性はいくつかある。

一つ目は米当局者の間で内密に議論されていることだが、プーチン大統領がマレーシア航空機墜落と事件後の親ロシア派の行動をひどく恥じ、親ロシア派への支援とウクライナ政府への圧力といったより広範な計画から手を引く時だと考えるのを、米国側は期待している。

オバマ大統領はプーチン大統領と頻繁に電話会談するなど、緊張をはらみながらも機能する個人的関係を保っているようだ。オバマ大統領はプーチン大統領を説得してウクライナをめぐる計画から手を引くよう促すことができると期待しているかもしれない。あるいは、プーチン大統領が方向転換することで面目を失ったと感じるような個人攻撃は避けたいと考えていてもおかしくはない。

さらに、オバマ政権が世界の他のさまざまな問題への対処においてプーチン大統領の協力が必要なことも純然たる事実だ。

シリア問題がまさにそうだ。ロシアの働きかけでシリアのアサド政権は化学兵器の破棄に合意したが、シリア内戦を解決に導くより多岐にわたる合意にもロシアの後ろ盾が必要になるだろう。イランとの核開発協議でもロシアの役割は重要で、米国とロシアを含む6カ国はイランの核開発抑制に向けて交渉を行っている。イランとの交渉は最終合意の期限が延長されたが、米政府にとってこの交渉をまとめることは向こう4カ月間の最重要課題の一つだ。

ロシアがウクライナから手を引き、プーチン大統領との関係を現状のまま維持するといったいいところ取りをオバマ大統領が期待していても不思議ではない。もちろん、こうした期待がいつまで続くかは不確かだ。

<http://on.wsj.com/lnDjUik>

## **マレーシア航空機墜落事件**

(兵頭に訊こう 2014 年 07 月 24 日 [国際紛争])

ウクライナでのマレーシア航空機墜落事件は、証拠もない段階から、異様なまでのオバマの、プーチンに対するバッシング、それに応じた米国と日本の、御用メディアの反ロシア・プロパガンダが続いている。

安倍晋三は、北方領土問題とプーチン来日があるので、はしゃぐのを抑えている。それでキャメロンより賢く見えるほどだ。

安倍晋三は、19 日に、下関市で講演した。ウクライナ問題について「ロシアには責任ある国家として国際社会の問題に建設的に関与してもらわなければならない」、「そのためにもプーチン大統領との対話を続けていく。一日も早い平和条約の締結に向けて粘り強く交渉を続けていく」と述べた。

今秋のプーチンの訪日を予定通りやるつもりらしい。北方領土交渉を進展させ、集团的自衛権で急落した支持率の回復を図りたいのだろう。マレーシア航空機撃墜事件については、「日本も国際社会とともに、できる限りの協力を行っていく」と述べるに留めた。

西側・国際金融資本（米金融ユダヤ）の報道によると、旅客機は、親ロシア派の「Buk（ブーク）」によって「撃墜された」のである。

ただ、ネットを中心に米国のプロパガンダには冷静に応じている向きも多い。これは世界的な傾向だ。

日本のツイッターでは、すぐに藤原直哉が次のようにツイートしている。

#### 7月19日

ウクライナ空軍の戦闘機は以前から旅客機に隠れて親露派区域に行き、高度を少し下げて住宅地域上空で爆弾を投下する。その後、再び高度を上げて旅客機に隠れ、離脱する。こうやってウクライナ空軍は親露派に旅客機を攻撃させようとする。こうやってウクライナは世界的破局と市民殺害をもくろむ。

遺体の状況、衝突の衝撃の状況などから、9.11のU A93便と同じように墜落を偽装した映像ではないかという声が上がってきている。

これまでオランダは米国が主導するロシア制裁に対してEUのなかで最も消極的な国だった。MH17はオランダのアムステルダム発で、オランダ人が最も多く乗っていた。オランダ政府は対応に苦慮。見えてきますね、構図が。

#### 7月20日

だいたい、ロシアがクリミアに乗り込んできたときのウクライナ軍はあっという間に壊走した。それが今では相当な殺人を繰り返す軍隊になっている。欧米イスラエルが相当な支援をしているはずだ。今回使われたと言われているブーク・ミサイルだって元はソ連製でウクライナ軍が持っている。

現在のウクライナは旧ソ連邦内の国であり、兵器も技術もすべてソ連（ロシア）のものを受け継いでいる。「Buk（ブーク）」から撃たれた、といったところで、だからロシアの関与、とはならないところが、西側の苦しいところだ。

むしろウクライナがやったのではないか、という説の方が説得力がある。プーチンのいう「領土内で起きたことはその国の政府に間違いなく責任がある」とはそういう意味だろう。

しかも、プーチンの乗った大統領機が、マレーシア航空機と同じ航路を、37 分以内の間隔で飛んでいたという情報が出てきた。こうなると、米国はプーチン暗殺を謀り、マレーシア航空機を、プーチン大統領機と間違えて撃墜したという推測が可能である。ネット上には、2 機の飛行機の写真が出ているが、外観が非常に似ている。

こういった情報が出てくる根底には、世界中に米国政府への不信感がある。イラク侵略の大義名分にされた大量破壊兵器は、結局、イラクには存在しなかった。アサドの化学兵器使用、イランの核兵器、詳しい向きは 9. 11 のビル破壊にいたるまで、米政府には不信と疑惑の目が向けられている。

ボストンマラソンの爆破事件も、9. 11 後のイラク侵攻や日本の 3. 11 と同様に、ディザスター・キャピタリズム（惨事便乗型資本主義）の絶好の材料に使われる。民営化された国民監視は、米国では巨大なビジネスに成長しているのだ。

フセイン、カダフィとも、IMF のドル支配を否定して殺害された。そして今度は B R I C S 結成直後のマレーシア航空 MH17（ボーイング 777）撃墜事件である。

米国政府ほど不信感を持たれている政府も珍しい。それは米国家安全保障局（NSA）が西側同盟指導者の携帯まで盗聴し、監視していた事実が、スノーデンによって暴露され、極まった感がある。

ガザもウクライナも根が深い。ロシア外務省外交アカデミー副学長のアレクサンドル・ルーキン は「欧米の偽善とロシアの立場——ユーラシア連合と思想の衝突」のなかで次のように書いている。

Ukraine (2) <http://bit.ly/lniYohP>

「ドイツ統一後、欧米の指導者たちはミハイル・ゴルバチョフに対して北大西洋条約機構（NATO）を東方に拡大しないと約束していた。だがこの約束を忘れたのか、アメリカとその同盟諸国は、冷戦期にはソビエトの抵抗によって実現できなかったこの構想に着手した。彼らは NATO を東方へと拡大し、旧ソビエト諸国を含む 12 か国をメンバーに迎え入れた。

それだけではない。欧米はモスクワに対して「エストニア、ラトビア、リトアニア、ポーランド、ルーマニアなど、ロシア国境に近い地域に NATO を駐留させても、ロシアの安全保障は脅かされない」とモスクワを説得しようとさえ試みた。

NATO だけでなく、欧州連合（EU）も、これと同じ時期に 16 か国を新たにメンバーに迎え入れた。

ロシアの指導者は虚を突かれた。「ロシアと欧米は互いに協調路線を強化し、相手の利益に配慮し、ともに受け入れられる妥協を試みる」と考えていたからだ。モスクワは「自分たちは十分に協調した」と感じていた。

国益概念を放棄したことは一度もなかったが、それでも支配的な欧米秩序への仲間入りを果

たすためなら、一定の譲歩をすることにも前向きだった。だが、われわれを勇気づけるような言葉を何度も発しながら、欧米がロシアの協調や妥協に応じることはなかった。

それどころか、欧米の指導者たちは、彼らが勝利を収めたと考えていた冷戦期のゼロサム関係の心理から脱しきれずにいた」(『Foreign Affairs Report』2014 N07)

ここにはロシアの屈折した微妙な心理が的確に描かれている。それは端的にいうと、欧米への信頼と、それが裏切られたという苦い思いだ。

実際、ドイツ統一後、NATOは東方へ拡大し、旧ソビエト諸国を勢力圏に入れてきた。一体、NATOとEUは、どこまで大きくなるのか。

もしかするとその境界は、ロシアと国境を接するウクライナではないか。そのとき、ロシアが国境沿いに並べられた米国のミサイルを認める筈もないのである。

それはちょうど、メキシコあるいはカナダとの国境沿いに、ロシアのミサイルが並ぶ状況を、けっして米国が許容しないのと同じである。

<http://bit.ly/luhtA50>

## **アメリカ諜報機関：ロシアがやったという証拠は皆無 2014年7月24日 マスコミに載らない海外記事**

Paul Craig Roberts

2014年7月23日

何日間も、敵対的に、マレーシア旅客機墜落はロシアのせいだと主張し続けた後、ホワイト・ハウスは、アメリカの諜報機関幹部が、記者団に、ロシア政府が関与していた証拠は皆無だと語ることを許した。

明らかに、アメリカの衛星写真は、オバマ政権のウソを裏付けていないのだ。もしホワイト・ハウスが、ロシア加担の証拠を持っていれば、何日も前に鳴り物入りで公開していただろう。

ディック・チェイニーが命じた機関粛清後も、非合法活動部門と対照的に、CIAの分析部門が、品位ある分析官を維持していたことは我々にとって幸運なことだ。CIAが、ブッシュ政権の戦争の為のあらゆるウソに即座に同調しないことに激怒して、チェイニーが機関を粛清した。この組織の非合法活動部門は、また別の話だ。CIAのこの部門は、アメリカ法に違反して活動しているのだから、予算を与えずに、廃絶すべきだと考えている人は多い。

アメリカ政府が非合法活動を撤廃したり、ホワイト・ハウスが、ロシアにつきつめた、根拠のな

い言いがかかりや当てこすりを、オバマ政権がロシア政府に謝罪したりするまでは油断してはならない。

アメリカの諜報機関幹部がこうして認めているにもかかわらず、プロパガンダ省は既に、この承認を損なうべく作業中だ。諜報機関の幹部自身、キエフ政権が、分離主義者を攻撃するようになった“諸条件を生み出した”のはロシアなので、ロシアは恐らく間接的に責任がある、と主張している。

言い換えれば、アメリカ国務省幹部ビクトリア・ヌーランドが監督したアメリカ政府によるクーデターは、民主的に選出されたウクライナ政権を打倒し、過激なロシア嫌い連中をキエフ政権にしつらえ、その連中が、ロシアとウクライナが同じ国の一部だった時代に、ソ連共産党指導者が、ウクライナに編入した元のロシア領内で、彼等に反対する人々を攻撃していても、この結果にはなんの責任もないというのだ。

アメリカ政府は無辜だ。ロシアが悪い。以上で話は終わり。

前日、オバマ政権の脳なし戦争屋の一人、マリー・ハーフ国務省広報担当官が、ロシア政府が関与を公式に否定したことについて質問した記者に、怒ってかみついた。彼女は詰問した。アメリカ政府が言うことは信頼ができて、ロシア政府が言うことは信頼できないということがわからないのですか！

マスコミのオーナーも、記者の編集長も、間違いなく命令と脅しを受けている。万一、記者が誰か本気で自分の仕事をしだぐゆえに首になっても私は驚かない。

そういうことだ。アメリカは出版の自由の国だ。アメリカ・マスコミは、政府の為に自由にウソをつくことができるが、それ以外の自由は決して行使してはならないのだ。

アメリカ政府は、MH17 事件の公式的解明を決して認めることなどあるまい。今日（7月23日）BBC（イギリス洗脳会社の略語）はこう宣言した。“飛行機のブラック・ボックスがイギリスに到着したが、MH17 墜落の証拠が意図的に改ざんされたという情報が得られたと、イギリス政府筋は述べた。”

ブラック・ボックスが改ざんされたというこの主張の後で、BBCは自ら矛盾する報道をしている。“捜査を率いているオランダの安全委員会は、MH17 操縦室の音声記録装置（CVR）から‘有効なデータ’がダウンロードされ、‘更に分析される’予定だと述べた。委員会は said: ‘CVR は損傷していたが、メモリー・モジュールは無事だった。更に、CVR が操作された証拠や兆候はみられなかった。’”と述べた。

BBCは、一体どうして、ブラック・ボックスが、同時にイギリスとオランダの手中にあるのか、あるいは、ブラック・ボックスは、国際民間航空機関（ICAO）に引き渡され、専門家による政治色の無い検証に使われるという保証の元で、分離主義者がブラック・ボックスを、マレーシアに

引き渡したのに、一体なぜ、それがイギリスやオランダの手中に至ったかを説明していない。

ブラック・ボックスは一体どこにあるのだろうか？ もしマレーシアがイギリスに引き渡したのであれば、イギリス政府は、何であれ、アメリカ政府が要求するウソをつくだろう。もしアメリカ政府の傀儡イギリスが、実際にブラック・ボックスを持っているなら、我々は決して真実を知ることはいずれもできない。買収されて、金をもらっているオランダ首相の、敵対的で、根拠のない対ロシア非難から判断して、オランダも、アメリカ政府の為にウソをつくと予想できそうだ。どうやら、アメリカ政府は、ICAOの手から“捜査”を奪い取り、捜査を自らの傀儡の手に引き渡すことに成功したもののようだ。

欧米のニュース報道を基にしてコラムを書く場合の問題は、ニュース報道の真実性が全くわからないことだ。

あらゆる点から見て、オバマ政権は“国際捜査”を、ロシア告発へと転換するつもりで、オランダも、捜査のこの墮落した利用方法に同調するように思われる。ワシントン・ポストの記事が明らかにしている様に、捜査において、キエフとアメリカ政府に責任があり得るといえるような疑惑も入る余地を無くしてしまったのだ。<http://wapo.st/1kZFeZu>

品位もロシアに対する善意も欠けている腐敗した欧米を信頼し続けることで、分離主義者とロシア政府はまたもや誹謗されるよう自ら仕組んでしまったことになる。彼等に学習能力はないのだろうか？

私がこうして書いている間にも混迷は益々深まりつつある。“有力なウクライナ人反政府派指導者アレクサンドル・ホダコフスキーが、親ロシア派の分離主義者が、マレーシア航空MH17 便撃墜に使用されたとアメリカ政府が主張しているタイプの対空ミサイルを保有しており、それはロシアから来た可能性があることを確認した”というロイター報道を画面で見ている。ロイターは、この分離主義者司令官（あるいは、ロイター報道は、後に、ホダコフスキーを“ドネツクの治安維持担当‘アルファ’対テロ部隊の元隊長”と表現したのだから恐らく元司令官）は、他の司令官達と、戦争のやり方を巡って論争していると述べている。

ホダコフスキーは、どの部隊がミサイルを保有していたのか、どこから発射されたのかは知らないことを明言している。正確、あるいは実際の情報は持っていないことを彼は明言している。彼の主張は、ウクライナ政府が、旅客機が飛行していた地域への空爆をしかけ、軍のジェット機を旅客機近くに飛ばせて、旅客機を軍用機のように見せかけて、分離主義者をはめて、ミサイルを発射させるようにしたというものだ。ロイターは“たとえそこにブークがあったとしても、そして、たとえブークが利用されたとしても、民間航空機が撃墜されるようにすべくあらゆる手をつくしたのはウクライナだ”というホダコフスキーの主張を引用している。

ホダコフスキーが他の司令官達と論争している様子や、彼の動機がわからないので、彼の主張の正当性を評価するのは困難だが、彼の話は、従来、説明されなかった決定、つまり一体なぜウクライナの航空管制が、マレーシア旅客機に戦闘地域上空を飛行させたのかを説明できる。

記事の煽情的部分の後、ロイターは、いささか逃げ腰になっているように見える。ロイターは、ホダコフスキーが、分離主義者の運動には様々な指導者がおり、“我々の協力は、いささか条件付きだ”と言うのを引用している。ホダコフスキーは、分離主義者が、使用可能なブーク・ミサイルを持っていたか否か、はっきりしなくなった。ロイターによれば、ホダコフスキーは“ウクライナ軍から捕獲したブークの一つとして使用可能なものはない”と言ったという。もしそのようなミサイルが存在したとすれば、ロシアが使用可能なミサイルを分離主義者に提供したことを意味しよう。

分離主義者の答えは説得力があると思う。もしこうしたミサイル why to キエフの馬鹿者どもが send 飛行機 to 爆撃するために、連中の爆撃が一体なぜこれほどうまくゆくのか？ 分離主義者は、ソ連侵略時代に、アメリカがアフガニスタンに提供したような肩に担いで発射できる地对空ミサイルを持っている。こうしたミサイルは、低空を飛行する飛行機にしか使えないのだ。そうしたミサイルは高度一万メートルには届かない。

ロイターによれば、この記事は、一人の人物が報告したもので、二人目が書き、三人目が編集したのだという。自らのジャーナリズムでの経験からして、これは、一体誰の記事かわからず、どう書き換えられたかわからず、その信憑性がどうかもわからない。

9.11 やジョン・F・ケネディ暗殺と同様、あいまい化が始まっていて、個人は、証拠を調べて、自らの意見を形成する以外の方法はないと結論して間違いなからう。アメリカ合州国政府は決して本当のことを言うまいし、イギリス政府や売女マスコミは、アメリカ政府の為にウソを語り続けるのを決して止めるまい。

アメリカ政府の賄賂と脅しによって、アメリカ政府お好みのどんな話でも作り出すことが可能だ。腐敗の極みのホワイト・ハウスが、自らの諜報機関による反対に対し、国務長官を国連に派遣し、ホワイト・ハウスが存在しないことを知っていたイラクの大量破壊兵器に関するウソを世界に言わせたことを肝に銘じて頂きたい。その結果、ひたすらアメリカ政府のウソと、それによる中東における不安定の激化で、何百万人もの人々が殺害され、不具にされ、強制退去させられているのだ。

オバマ政権は、アサドが、シリア国民に対して、化学兵器を使用したというでっちあげ“証拠”を基に、ホワイト・ハウスが決めた“越えてはならない一線”を越えたとして、アメリカ軍によるシリア国民攻撃を正当化した。ロシア政府はでっちあげ証拠を暴露し、イギリス議会は、オバマ政権によるシリア攻撃に対するイギリスのいかなる参加も否決した。孤立化したオバマ政権は、戦犯というあからさまな役割をあえて演じることはできなかった。

このように妨害されて、オバマ政権は、シリア攻撃の為、過激派聖戦戦士以外の連中に、資金援助し、武器を与えた結果、過激な I S I L が、イラクとシリアの一部にカリフ管区を切り開こうという過程にある。

ジョージ・W・ブッシュ政権も、オバマ政権も“イランの核兵器”について白々しいウソをつき続けていることを肝に銘じて頂きたい。

あり得る唯一の結論は、絶えずウソをつき続けている政府は信用できないということだ。

腐敗したクリントン政権以来、アメリカのジャーナリストは、アメリカ政府の為にウソをつくよう、上司に強制されている。マリー・ハーフとの対決で、一部のジャーナリストが多少の勇気をふるったこと見いだしたのは明るい兆しだ。この勇気が根ざして、成長することを祈ろう。

クリントン政権、ジョージ・W・ブッシュ政権、そしてオバマ政権の政策を決めてきたネオコンがもたらした損害から、アメリカ合州国が立ち直れると私は思わないが、21世紀のアメリカ政府を特徴づける膨大なウソと欺瞞に対する反対の兆しを見たら、我々は、常に、ウソに対決する人々に声援を送り、支援すべきだ。

我々の将来、そして世界の将来は、それにかかっている。

Paul Craig Roberts は、元経済政策担当の財務次官補で、ウォール・ストリート・ジャーナルの元共同編集者。ビジネス・ウィーク、スクリプス・ハワード・ニューズ・サービスと、クリエイターズ・シンジケートの元コラムニスト。彼は多数の大学で教えていた。彼のインターネット・コラムは世界中の支持者が読んでいる。彼の最新刊、The Failure of Laissez Faire Capitalism and Economic Dissolution of the West、HOW AMERICA WAS LOST が購入可能。

記事原文 URL : <http://bit.ly/UrjsXz>

<http://eigokiji.cocolog-nifty.com/blog/2014/07/post-6cb2.html>